

☆放送委員会マニュアル(´・ω・`)☆

20100730F版～created by放送いっいんちよ♪～

____年度入学__年__組
名前_____♪

★目次(ノ^^)ハ(^^)★

	ページ
はじめに♪ ……	3
その 1♪基本方針 ……	3
その 2♪仕事のメールのルール ……	4
その 3♪取材 ……	5
その 4♪原稿の書き方 ……	6
その 5♪原稿の言葉 ……	8
その 6♪昼放送・掃除放送・下校放送 ……	8
その 7♪昼放送のデスクさんのお仕事 ……	13
(昼放送原稿例……16)	
その 8♪行事などについて ……	19
その 9♪校内放送に関する様々な歴史 ……	28
その 10♪その他イロイロ ……	31
おまけⅠ♪大会説明+アナウンス・朗読……	33
おまけⅡ♪番組について ……	38
おわりに♪ ……	42

はじめに♪(・▽・´o)

時刻は…、何時ですか?(笑)みなさんこんにちは♪このマニュアルに書いてあるのは最低限のことです。活動していくともっと色々なことに気づくと思うので、自分達でその都度声をかけあっていきましょう。ただし、個人で書いた原稿を送る時に、その3からその5までに書いてある内容が来ていなかったら…、どうなるかわかりますよね?(´▽`)→\(*´Д´)ノ書いてあることは最低限お願いします。がんばりましょう★

…と、初めて作った時(2009年8月)には最低限の内容だったのですが、引退した後のことが心配で、“これを読めば、放送委員会の活動の大体がわかる”、そんな文書を目指して、色々資料をあさったり考えたりして、随分バージョンアップしてしまいました…(顔文字が多いのは、文字ばかりでこの量だと読む気をなくすだろうという配慮です!!)。それでもやっぱり、文章には書ききれないもので、実際にやらなければわからない部分も多いです。ですのでやっぱりこのマニュアルは、最低限をちょっと超えた最低限の内容です←。これを参考に、みんなで真の放送人(放送ンちゅ)になっていってください。このマニュアルが、未来の放送委員の役に少しでも立てばと思い、これを置き土産に私は引退致します。放送委員会のさらなる発展を祈っています。がんばってください。では、また♪

2010/7/21 放送委員長3年 弓岡千恵

その1♪基本方針(^▽^)

放送委員会の活動が目指すもの…評価は視聴(聴取)者がおこなうもの

放送委員会とは?

生徒会会則第39条の1によって、「校内放送・行事における放送をするほか、放送機材を管理する」ことが主な任務と定められた専門執行委員会です。生徒会の一組織なので、生徒からの信頼がいちばん基本であり、必要とされます。

(1)気の利く人間になろう

- ・常に周囲に気を配る
- ・放送は常に脇役、決して主役ではない
- ・人の都合が優先、自分の都合はあと
- ・放送は空気と同じ。あって当たり前、ないと困る
- ・思いやりのある言動・行動を
- ・メンバーのミスフォローする気配り、気働き

(2)責任をもって仕事をしよう

- ・校内放送に穴をあげない
- ・頼まれた仕事は断らない、頼まれなくてもやる
- ・放送委員の仕事はできて当たり前、ミスした時だけ言われるもの
- ・毎日の校内放送をすることが、学校・生徒からの支持につながる
- ・組織での仕事であることを自覚する
- ・自分の都合で判断しないこと
- ・どうしても都合がつかない場合は、フォローしてくれる人を自分の責任で確保すること
- ・ミーティングでの連絡事項は遵守すること

(3)楽しく、自発的に仕事をしよう

- ・自分で見つけた話題を伝えよう(原稿を「読む」だけでいいのか)
- ・一週間にひとつ、話題を見つけて、伝える楽しさを味わおう

毎日本番を経験できるのは放送だけ。毎日取材し、毎日放送した経験が力になる☆

・校内放送活動の内容…全部「番組」

- ① 校内放送…お昼の放送、掃除放送、下校放送など
- ② 校内行事…音響設置・操作など、行事の運営
- ③ コンテスト…放送コンテストなどへの参加
- ④ その他…自主企画事業

※優先順位は、①→④の順。実際他の学校を見ると、①に力を入れているところはあまりありませんが、盛岡一高放送委員会の活動は、校内放送が出来て初めて成り立つものです。毎日のお昼の放送がきちんと出来なくなったら、一高の放送委員会が活動する意味はありません!!コンテストに出なくても、校内放送だけは何かあっても続けましょう。盛岡一高放送委員会の昼放送はじめ、毎日の校内放送に誇りをもってください!!

※呼び出し放送は平成16年から原則禁止としています。理由は次の3点。

- ①そもそも受け手に主導権がある放送というメディアで、「放送聞かなかったのか?」はナンセンスであること。
- ②個人向けの放送を全校に流すことが日常化すると、生徒の「聞き流す力」が育成されること。
- ③すぐれた教育実践のある学校では、呼び出し放送などおこなっていないこと。

° +。校内放送をするとどうなるか。+ °

放送委員は…生徒全員から覚えられる。生徒全員のことを覚える。その両方があるのは放送委員だけ。
コンテストで成果が出るとみんなにほめられる♪
生徒は…お昼の放送で取りあげられることがステータスになる。みんな活躍しようとする。大会に行った部活からは放送室におみやげが届く。
学校は…みんなが放送でつながって、いい社会になる。

NHK 宇治橋祐之(うじはしゆうじ)

「しらべて、まとめて、つたえ」(て、動かす)

しらべる→「知ること」から「わかること」へ

要素は? 構造は? (畑村洋太郎)

まとめる→「わかったこと」を「いいたいこと」へ

→「いいたいこと」を「伝えること」へ

つたえる→「伝えること」で「動かす」

その2♪仕事のメールのルール(´・ω・´)

放送委員会の活動は、遊びじゃない!お仕事なので、切り替えが大切です♪

※仕事のメールでは、以下のルールを必ず守ること

- ・件名を適切につける(内容がわかるように)
- ・本文の最初で自分の氏名を名乗る(例: 徳永英明です。)
- ・連絡のメールの返事などの場合は、「はい」だけの内容は不可。内容に即した、気の利いた返事をする
- ・顔文字や☆などは使わないこと(ことばで伝えるのが放送委員の仕事。ただし♪と～は使用可)

その3♪取材(≧ω≦)

実際に現場に行っ て取材するのがベスト★取材中の会話を楽しむ♪

楽しくお喋り(取材)できたご褒美(オマケ)として、いい話をもろうことができると

できるだけ『ナマ』にせまる～自分があかったこと、感じたことしか、伝えない

誰に何を聞くか～「問題の答えをもろってくる」ようなものは取材とは言えない

- ・取材分担は奪いあう!!
- ・取材分担が決まったら…
 - 昼休みのうちに顧問の先生のところに行って、結果や大会の概要、出場者の基本情報など、調べられる情報は調べておく(知ってから取材に行った方が、詳しく聞けます)
 - キャプテンさんや部長さんへのアポ取り(活躍した人がいる場合は、その人に)
 - 放課後(昼休み)すぐに取材に行く。待たせると失礼です。そして早く行かないと、「え!!帰っちゃった!?アポとったはずなのに…」なんてことになります;
- ・取材はなるべく早く!!できれば大会など、現場に行く。
自分がその場にいる場合は特に、すぐ取材する。その時のテンションで答えてくれることもあるはず☆早い方がきっといいコメントがとれます。また、実際現場に行くと、「あっ」と思うことがあります。それが大切です。そういうのがないとおもしろい原稿にはなりません。おもしろい原稿じゃないとお昼の放送はできません!!
- ・取材はくれぐれも失礼にならないように。特に結果がよくなかった大会の取材は頑張りましょう。また話したいと思われるか、放送委員会も来んな!!と思われるかは、私たちの取材力にかかっています。取材する短い時間で相手といかによい人間関係を作れるかがポイントなのです。
- ・取材中は相手の目を見て、うなずきながら聞くといい。当たり前ですが、メモをとることに必死になっていてはダメです。
- ・事前に考えていた質問をただ機械的にしていくのではなく、相手が答えてくれたことにどんどんつつこむ。これ!という言葉がもらえるまで質問する!!それが自然に出来るようになればOKです♪
- ・流れを大切に。KYはいけません。
- ・聞いたことはすべて頭に置きながら取材を進める。自分の中でつながりを考えながらやらないと、原稿にする時にまとまらずに悩むこととなります。「そういえば、さっきこうおっしゃっていましたが…」など、つながる部分を考えながら話が聞けるとよいと思います。それが出来ると話もふくらみます。
- ・次の大会が何で、いつどこであるのか、それに向けての意気込みなどは必ず聞く。
- ・名前を公表していいか聞く。
- ・楽しい取材がベスト!!取材と言っても堅苦しいものではなく、普通のおしゃべりだと思ってやる。慣れないうちや、ある程度慣れてきて取材に行くと、手っ取り早く結論だけもらって終わりたいと思うことがあるかもしれません。…が、取材では、いい雑談ができたご褒美として本当の話が聞けるものです。上手く雑談が出来ると、次また取材に行ったときに、結構歓迎してもらえるものです。取材では、実は「雑談力」が大切なのです(・ω・)
- ・自分が取材したことは、委員会の中では誰よりも詳しくなるつもりで取材する!

その4♪原稿の書き方(ノω\)

News Critetia (of NY Times by 立花隆)

1、真実か

2、伝える意味はあるか

(伝える価値があるか、いま伝えるべきことか、誰に伝えることか)

☆誰にとっても価値のない放送は百害あって一利なし

☆一人だけのための呼び出し放送は、その他の人の「聞き流す力」しか育てない

☆全校に放送する意味のある内容以外は排除する

☆「みなさん」という人はいない。誰にしゃべりのか決めましょう

・誰が、大会名、結果、いつ、どこで

・まず結論

・どんな大会(参加校の数、規模、戦い方…トーナメント?とか)

・個人、団体戦ともに、メンバー全員の名前を確認(原稿にいれるかどうかは自分で判断)

・試合の流れ

何対何から逆転した…とかは特に詳しく!!サッカーや野球の原稿等は特に、点を入れた時の様子や、詳しい試合展開がわかるように書く。試合終了時のスコアだけではなく、流れがわかるような内容が大切。スコアだけ放送しても聞いている人には何も伝わりません。

・一文は出来るだけ短く。体言止めは使わない。

・放送された人が不快になるような書き方はしない。

例えば、結果が悪かった大会の原稿。部員さん達の傷口に塩をぬるような書き方は絶対にやめましょう。負けた試合でも、学んだことやよかった部分が絶対にあるはず☆そもそも取材でそれが聞けてなきゃ書けないけど…;あとは、「敗退」という言葉はあまり多用しない方がいいです。

・「」の文は、ひとつの原稿に基本的にひとつ。無くてももちろん大丈夫。入れなければいけないものではない。

男女ある場合などは、両方入れてもいい。ただ、かぎかっこの文をわざわざ入れる必要はないので、何を「」の中に入れるべきか考えてください。長すぎてもダメ。

・最初にあげる原稿は、聞いたことを色々盛り込んで書いてみてください。情報が多い分には削れますが、原稿が短いとどうにもしようがありません。

・書いたら一度、必ず声に出す。

声に出してみれば、文のおかしなところや、わかりにくい表現などに気付けるはず。自分にしかわからないような原稿の書き方では意味がありません。それを聞けば、聞いた人は誰でもわかる!!そんな原稿を目指してください。聞いた人から「ここってどういうこと?」と聞かれて、「それはこういうことで〜」と説明しなければいけないようでは全然ダメです。原稿は、常に聞き手のことを考えて、聞いている人に伝わるかを考えながら書きましょう。聞いている人は、音声のみで聞いているので、音で聞いただけで内容が伝わるくらいわかりやすくないといけません!!さあ、大変だあ〜。

・原稿は基本的に、必ずその日のうちにあげる!!早くしないとデスクさんが死にます。

・ケータイから送る場合は、1文ずつ改行してもらえると助かります。個人で原稿を書く段階でも、しゃべりやすい改行に気をつけましょう。箇条書きの形式(?)をうまく使えると、原稿がすっきり見えて、しゃべりやすいです。過去原稿を見てください☆

・基本情報とコメントだけで終わる原稿なら、放送する意味はありません。

基本情報→結果→コメント→次の大会は…→がんばってください、という原稿が、大会原稿では特に多いです。どの部の何の大会の様子でも常にこのように放送していたのでは、聞いている人は聞く気を無くしてしまいます。特に、最後の文は工夫しましょう。〈次の大会は～です・ベストを尽くしてきてください・応援しています・朗報を期待しています・がんばってください〉など、ほぼテンプレート化しています。そこでいかに違うことを書くか、いかにおもしろく書くか。最後まで妥協せずに、プライドを持って考えてみてください。もちろん最後の部分だけではなく、全体として、他の人とは違う自分らしさを出した「きらりと輝く原稿」が書けるようになると、最高です。みんながそれをできるようになれば、昼放送はキラッキラになります★笑。

・総合学習の講演会など、何かあったら言われなくても原稿は書きましょ!放送委員はそういうものです。やること、起こったこと、遭遇したこと、すべてが”ネタ”です!!日常で何かあった時に、「あ、これネタになるじゃん!!」といちいち思ってしまうくらい(職業病?)放送委員としての意識が高くなるといいですね。

※オリジナル原稿について※

取材分担を決めて行く通常の部活の大会原稿ではなく、自分でネタを見つけて自由に書く原稿のことです。ネタとしては完全に自由なので、いちばん楽しく書ける原稿かもしれません。ただ、オリジナル原稿と言うと、「今日は何の日」ネタや、「〇〇対策(花粉症、インフルエンザ)」など、インターネットで調べたものをそのままコピペしたような原稿を書いてくる人がいます(ウィキペディアそのままですか?みたいな)。オリジナル原稿と言っても、取材はきちんとしましょう!!誰にも取材していない原稿だと、聞いている方も面白くないです。校舎内や外を”歩いて”見つけたネタが、いちばんいいと思います。自分で「あっ!これ伝えたいな」と思えたネタなら、書くのも楽しくなるし、原稿も自然と面白くなるはずですよ♪オリジナル原稿が書ける人こそ、本当に原稿が書ける人だと思います～。

悪い原稿とは… (このような原稿は取材して提出されても流せません。流しません!!)

- ・不正確、検証不足な情報が載っている原稿
部長も顧問も、結果が不正確な場合があります。ウラもとって、正しい情報を伝える努力をしましょう!
- ・鮮度が失われた原稿
- ・ありきたりな原稿
テンプレートのように放送していたのでは、生徒の聞き流す力が育成されず
- ・内容がない原稿
- ・思いやりにかけた原稿(アナウンスする人にとっても、聞く人に対しても) などなど…。

当たり前のことですが、悪い原稿にならないようにするのではなく、いい原稿が書けるように努力しましょう。勘違いしてほしくないのは、「このマニュアルに書いてあることを書けば、なんとなく原稿の形にはなるからそれでいいや～」という思考に走らないでほしいということです。そう思っているあなたは、放送委員として根本的に間違っています。あくまで最低限のポイントですので、自分でがんばりましょう。

とのらぶ原稿の言葉(´-ω-)

ま・も・ろ～うぜっ！原稿書くときゃ！！(つ・か・も～うぜっ！ドラゴンボール！！←)

- ・今日→きょう
- ・明後日→あさって
- ・昨日→きのう
- ・行われ→おこなわれ
- ・すぐ→たいへん
- ・皆さん→みなさん
- ・等→など
- ・白垂→白墜
- ・明日→あす、あした
- ・昨年→去年
- ・応援→應援
- ・5名→5人
- ・約→およそ
- ・頑張る→がんばる
- ・二人→ふたり
- ・「なので」は話し言葉なのでNG などなど…

過去原稿を見ると、何をどのように直せばよいか分かるようになってきます

※漢語や外来語はなるべく使わない。漢字ばかりの原稿はしゃべりにくいし、聞き手にも伝わりません。

なるべく簡単な言葉(ひらがな、話し言葉)で表せるようにしましょう★

※数字など、記号は全て半角で

※おおげさな表現は避ける。副詞や形容詞を使うと文の信頼性が落ちます。

※難しい言葉や地名、学校名などには、必ずかっこがきで振り仮名をつけましょう。

※名前の書き方※

- ・原稿に初めて出てきた時→例: 3の9 放送好子(ほうそうすきこ)さん
(女性の場合、さん。男性の場合、くん。)
- ・2回目以降に出てきた時→例: 放送さん(基本的に苗字で)
- ・先生の場合は、「〇年〇組担任の〇〇〇〇(〇〇〇〇)先生」や、「数学の〇〇〇〇(〇〇〇〇)先生」といった書き方にしましょう。詳しくは過去原稿参照!!

とのらぶ昼放送・掃除放送・下校放送(°▽°)

毎日の放送…アナウンス・音響技術+取材力

目標…校内放送で学校を楽しくし、一高をもっと好きになってもらおう

常に生放送。適度な緊張感を持って、ノーマスで。

☆昼放送☆～校内放送の中心となっという、昼休みの校内ニュース放送よ～

昼放送は、平成13年4月17日に始められてから、テストの日、放送の大会で委員が不在の時を除いて、毎日続けてきました(・▽・)☆一高でがんばっている人たち(部活・委員会・個人・時には先生など)を紹介して、みんなに知ってもらうことが目的で、みんなが聞いて得するような情報も入れています。

※昼放送に関わる様々な歴史(?)については、『その9 校内放送に関わる～』を参照してください。

昼放送の内容は主に、連絡、校内ニュース、天気予報の3つからなります。

- ・連絡については、SHRでの生徒向けの連絡、生徒会掲示板に出された委員会・部などの集会連絡、生徒会からの依頼などに基づいておこなっています。安易な呼び出し放送を減らすのが当初の目的でした。お昼の放送は、最初と最後の連絡が、「パン」、内容の部分のニュースが「具」という構造です。連絡が伝わったかどうかは、放送で呼びかけた集会の場所に行ってみればすぐにわかります。
- ・校内ニュースについては、月曜日は1週間の予定、火曜日から木曜日は大会結果、金曜日は週末の予定と、おおまかに決めています。大会予定などを見ながらみんなで分担して取材して、原稿にしたものをデスクがまとめています。
- ・天気予報は、定型文にあてはめる方式でおこなっています♪(冬で気温が氷点下の時などは、レポートが変わります。プラスの何度とか、雨の確率を、雪の確率にするとか)

- ・放送時間は、月曜日は昼掃除のため、13:15～
火曜日から金曜日は、 13:10～
- ・放送区域は、各教室、廊下、トイレ、第一・第二体育館、家庭科実習棟、休憩室、美術教室・準備室、書道教室・準備室(放送室の卓の区域部分の、赤インクで印がついている所が基本区域です)。校長室・職員室・事務室等には入っていません。
- ・担当の日は、授業が終わったら必ずすぐに来る。担当ではない日に来るのももちろんOK。人が足りない時には、お手伝いをしてくれる人がいると助かります。
- ・換気扇を止める!!(よく忘れます)
- ・放送中は、放送室の扉を開ける。外の雰囲気を感じながらおこないます♪
- ・放送が終わったら、使った原稿は必ず片付ける。
裏が白いものはまだ使えるので、裏紙ボックスへ。両面印刷してあるものは、もう使えないので、回収ボックスへ。終わった原稿を散乱させないでください。その都度片付けないと、放送室が「いつのだよ!」って感じのよくわからない紙だらけになってしまいます…
- ・担当でない日には、教室で放送を客観的に聞く。客観的に聞くと、色々と気づく部分は多いはず。それをあとで他の人に伝えて改善していくとよいでしょう。単に、放送を聞いているクラスのみみんなの反応が新鮮で、楽しかったりもします(笑)

～それぞれの仕事について～

ディレクター(DIR)

全体がリラックスして放送できるよう、できる限りの努力をする役職。そして、ディレクターはその場の最高責任者です。昼放送でのミスは誰のミスであれ、本来怒られるべきはディレクターです。ミスは絶対繰り返さないように!!

- ・昼放送時間前のキュー出し
DIRは、およそ5分前・3分前・1分前・30秒前・10秒前・5秒前、4、3、2、…のキュー出しをおこないます。キュー出しの時は、1は言いません。DIRの声が入ってしまうと大変だからね!!DIRは時間前には時計から目を離さないでください!ただ、キューを出すときには、アナウンスの人や卓・BGの人の顔を見て出します。リラックスして話し出せるように、出来れば笑顔でできるといいですね☆詳しいやり方については、やっている先輩方を見て覚えましょう!!
- ・昼放送中のキュー出し
昼放送が始まったら、アナウンスが変わるところや一本線・二重線のところ等でキュー出しをおこないます。これも、詳しいやり方については実際やっている人を見て覚えましょう!!
- ・音量確認
廊下に出て、音量を確認する。確認して、音が大きいか小さいか、ちょうどいいか、卓・BGの人に教えてあげてください!!DIR以外に人が余っていれば、本来はDIR以外の方が確認に行った方がいいです。DIRは基本的にその場を離れないでください。
- ・DIRノートの記入。
その日の昼放送について、ミスや、よかったところなどを記入しましょう。書くのをどうしても忘れがちなので、気をつけてください!!

アナウンス

昼放送の完成原稿は、4時間め終了時に始めて見ることになります。ニュースも、自分が取材して理解しているものをしゃべるとは限りません。放送開始までの10分間(実質5分間)で、黙読(内容理解)と下読みを済ませて本番となります。

- ・ミキサーと卓の電源を入れて、フェーダーをあげて練習。
1分前までは、フェーダー上げてても大丈夫。1分前になってから本番までは、絶対に上げちゃダメ!!万が一卓の方が上がっていると、練習してる声が全校に…んんんてことになりかねません。
- ・漢字にはふりがなを!キーワードにはアンダーラインを!!
原稿は、自分がしゃべりやすいように言い回しをかえてもOKです。
- ・発声練習は、目が覚めてから4時間目までの過ごし方です。
午前中に声を出していないと、昼放送でも声は出ません。
- ・天気予報を担当する人は、天気予報と外国為替を忘れずに調べる。最後の、「きょうの担当は〇〇〇〇、〇〇〇〇、〜と、〇〇〇〇でした」というところは、自分の名前を最後にするのを忘れずに!!あと、担当と実際来ている人が変わっていたりするので、必ず再度確認して、来ている人を担当として述べるようにしましょう。せっかく仕事をしていたのに、名前が呼ばれないと悲しくなります…(;ω;))
- ・昼放送が終わったら、ミキサーと卓の電源を必ず切る!!
- ・原稿と替えたところがあれば、それをデスクさんに必ず報告しましょう。
- ・アナウンスは一言で言って、伝える仕事。伝えて人を変えていく仕事。それを聞いた人にどんな風が変わってほしいのか考えて仕事をしたいものです。

卓、BG

調整室の仕事は放送を教室に届けること。単純な仕事ですが、緊張感を持って行動しましょう!!

- ・区域確認
会議や検診など、放送が邪魔になる…という場合、そこは区域から外します。ただし、一階廊下は出来るだけ切らないことその日に何かやっていないか、常にアンテナを高くしながら、言われる前に区域を変えられるようにしましょう。
- ・卓で、MD・CD・スタジオの正しい部分のチャンネルが選択されている(ボタンがきちんと押されている)かを確認する。
ここが入っていないと、フェーダーをあげても音は流れません。とっても重要!!
- ・CH-3のレベルを6.5くらいに下げる。(昼放送だけ。理由などは『その9』校内放送に関わる〜』参照)
- ・音楽のCD、MDをセットする。
音楽は、その日の原稿の長さなどを考慮して選ぶ。毎日同じ音楽だと飽きるので、BGの人が色々チョイスしてOKです。School Life Musicなど使っていていいよ〜。音楽は、放送前に一時停止にしてDISPLAYボタンを必ず押す。一時停止にしておくことで、再生を押した時にすぐに曲が流れるようになり、DISPLAYボタンを押しておくことで、曲の残り時間がわかるようになります。けっこう重要!
- ・CD、MDのプレーヤーの返し(音量のつまみ)が下がっているのを確認する。
上がっていると、前のスピーカーから音が流れて、実際に校舎内に流れている音量がわからなくなります。必ず下げる!!
- ・卓の電源を入れる前にMDのフェーダーを上げておく。
上げておかないと、電源を入れた時にブチブチッという音が入っちゃうよ!!
- ・1分前になったら卓の電源を入れる。「電源入れまーす」と、必ず大きな声で言う。
- ・卓、BG共に、DIRの指示を見ておこなう。放送中は絶対にフェーダーから手を離さない!
卓、BGの上げるタイミングと下げるタイミングは、アナウンスの人も見てやる。BGは特に、いきなり音量が下がったとかいうことがないように、自然に!とにかく自然に!!
- ・卓、BGは前の3つのメーターのうち、真ん中(2つてやつ)を見る。
音楽だけの時は、大体メーターで、-20dBから-10dBの間でふれるように。アナウンスが入ったら、大体、最大で-2dB~-3dBくらいの音量になるように調整。ただ、卓の調子が悪い関係でメーターがあまり信用できないので、あとは、外で音量確認した人の指示と、自分の耳で調節しましょう。卓に異常がない時は、上記のレベルがちょうどいいです。

・BGが曲を変えるタイミング

BGの人は、曲の残り時間を気をつけて見ているようにしてください。残り時間が少なくなって、そろそろ終わるなと思ったら注意です。曲が終わったら、残り時間がまだ残っていても、すぐに次のトラックに変えるようにしましょう。そうしないと、曲と曲の間に時間が空いてしまい聞こえが悪いです。音楽はできるだけ絶え間なく流れている状態にしましょう♪

・BGは、最後のフェードアウト(FI)に命をかける☆

アナウンスが終わったら、音楽を一度あげて少し聞かせてから、ゆっくりゆっくり下げていってください。これでもかかっていうくらいゆっくりで大丈夫です。いつのまにか聞こえなくなったた…くらいを目指してください♪

・昼放送終了後、月曜日以外なら掃除放送の準備を忘れずにする。

曜日を必ず確認して、平日版と週末版を間違えないように、MDをセットしてください

～昼放送など、仕事に向かう意識～

1回1回が本番であることを忘れないでください。あなたが今日引退するとして、満足な放送ができましたか?一日一日、満足できるような放送を積み重ねていきたいものです。

☆掃除放送☆りらく～ま～♪

6時間目(月曜日は4時間目)終了後、10分間おこなっている音楽放送。アナウンスはいれない。平成13年4月の開始以来、曲は変更していません。この曲を聞いただけで、ほうきを持つ一高生が、相当数できたでしょう(^ω^)

・放送時間は、月曜日は、13:00～13:10、火曜日から金曜日は、15:45～15:55

・区域は昼放送と同じ

・授業が終わったら教室を飛び出して、全力疾走で掃除放送をかけにくる。

誰かがかけてくれるだろうから行かなくてもいいや…とみんなが思っていると、掃除放送はかからなくなります。誰かに先を越されて、走っている途中で音楽が聞こえてきて、「あー、流された!くそっ…!!」と思って、階段のあたりでみんなして引き返すくらいがちょうどいいと思います。掃除放送は、サバイバルです。いかに早く、誰が掃除放送を流せるか…。がんばりましょう♪)

・平日版と週末版で、MDを流し間違えないように!!

・終わったあとの後始末(?)までしっかり!

掃除放送を流し終わったあと、MDのフェーダーが上がりっぱなしで、卓の電源も入りっぱなしということがたまにあります。非常に危険なので、みんなで気をつけて、後始末まできちんとしましょう!

☆下校放送☆みんな、帰ってくれ～!!

平日は毎日、下校時刻の15分前におよそ5分間おこなっています。音楽と、翌日の天気予報などを放送。一高版『蛍の光』。平成14年4月開始で、それ以前は、進路指導係(または放送をしたい職員)が下校を促す放送をしていました。

- ・放送時間は、通常18:15～18:20
- ・区域は、昼放送の区域から一体・二体を除き、図書室を加える(注意!!)
- ・下校放送の曲は、放送委員で勝手に決められる♪好きな曲をかけられるよ～

＝CDからMDへの録音の仕方＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

- 1.MDデッキに空のMD、CDデッキに録音したい曲のCDを入れる。
空のMDを入れると、MDデッキの方には”Blank Disc”と表示される。
- 2.MDデッキのリモコンの、”SYNC RECORD”を押す。これで準備完了!
- 3.CDデッキの再生ボタンを押して、録音したい曲のトラックを流す。
- 4.曲が終わったら、停止ボタンでCDをとめる。
- 5.MDを取り出す。
- 6.ラベルを書く。流れるかどうか試してみる。完了!!

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

- ・下校放送も、平日版と週末版を間違わないように!
- ・原稿を作り忘れない!
よく直前になって、作ってない!!ということになります…。放送室にいる人が、余裕を持って6時前くらいには作るようにしましょう。原稿を作る時には、職員室に入ってすぐ右のところで、校舎内での延長活動が認められている部活を必ず確認しましょう。あとは、天気予報。そして金曜日には、プロフェッショナルのところの文章を考えなければいけません。印刷は、パソコンから1部出して先生に増刷して頂くのがいちばんよいですが、時間がない時はしょうがないので、パソコンから何枚か出しましょう。
- ・台風接近時や部活が大会で良い結果を出した時などは、下校放送の直前(音楽の前)に原稿を入れる。その場合、原稿の長さにもよりますが、およそ下校放送1分前の6時14分からスタートします。
- ・週末版(Progress)の場合、BGのやり方(?)が特殊になります。
1曲終わったあとに予告編が来るので注意。「では、また～♪」が1曲目の終わりにちょうどよさそうな時はいいですが、音楽が早く終わってしまいそうな時には、必ず一時停止をしてください。じゃないと、予告編トラックに突入してしまいます…
- ・放送準備段階(換気扇、卓・BG関係など)のことは、昼放送と同じ。
卓・BGについての詳しいことも、昼放送のところを参照してください!!
- ・下校放送は人が集まらないことが多いので、担当の人は遅くても6時には必ず放送室に来るようにしてください。担当でなくても、来るときとお仕事ができます。たくさん来た人勝ちです!
- ・終わったら、必ず区域を戻す(一体・二体を入れて、図書室を外す)

その7よ 昼放送のデスクさんのお仕事、(´▽`)/

デスクに妥協は許さねない…!!

その週の昼放送の質は、デスクの技量によって決まる。責任を持つ。

他の人に極力迷惑をかけないように自分でがんばる。周りに頼りすぎない。

誰にもつつこまれない完璧な原稿が出来れば、すんばらしいですなあ。

…というか、そうならなきゃダメよ～

デスクとは…

その日(週)の昼放送をとりまとめる、とても重要な仕事です。みんなからあがってきた原稿を見て、何をいつ流すのか決め、原稿を添削して、流せる状態にまでします。人の原稿の添削をしなければならないので、言うまでもなく、自分できちんと原稿が書ける人でないとやることはできません。担当を決めてまわしていくことになると思いますが、自分がデスクでない時でも他の人の手伝いなどをして、どんどん自分のデスク力を高めていってください。昼放送が、一高放送委員会の活動意義・存在意義であることをお忘れなく!!

・予定の確認

→職員室へ入ってすぐ右に、各部の公欠願いなどの紙が貼ってあります。それを見て、何部、大会名や期間、公欠者の人数など、全部メモしてきてください。大会に出る人数が少ない場合には、参加する人の名前までメモしておかないと昼放送の予定に入れる時に困ります。貼ってあるのが今おこなわれている分で、壁にかかっているのがこれからおこなわれる分です。毎日変わりますので、こまめに確認に行くようにしてください。

※ちなみに、下校放送の時の校舎内での延長活動が認められている部もここで確認。

→一部活動以外の予定は、その横にある職員の連絡黒板で確認できます。貼ってあるプリントを一枚一枚見て、必要だと思われることは全てメモしてきましょう。

※先生方に頼んでコピーしてもらえると楽

→月初めにはその月の予定のプリントが先生方むけに配られるので、月初めのデスクさんは、顧問の先生に頼んでコピーして頂くようにしてください。

→予定関係がわからないことや、生徒会・応援団関係、行事関係などは、担当の先生や生徒を事前にきちんと確認して、連絡を取り合えるようにしましょう。

・取材分担の確認

→週の始めに、原稿があがれば流せそうなものがいくつあるのか確認。そして、何曜日に何を流すというのを大体決めておきましょう(出来れば大会の結果などを確認して、よかったものから流せるようにすればよい)。あとは、原稿担当になっている人にひたすら催促!!早く原稿をあげてもらわないと、デスクのあなたが死にますよ…←リアルに

・原稿があがってきたら

→まず、基本情報が抜けていないか確認。あとは、ニュースとして伝える上で足りない部分がないかよく読んで判断してください。足りない情報があれば、取材した人にすぐにつきこみましょう。いい昼放送を作るために、原稿は容赦なく送り返して大丈夫だし、あまりにもひどい時にはキレてもいいです(…というかキレたくなくても、デスクになったら切羽詰まってくるので、みんなきっとキレます;妥協して、まあしょうがないか…と中途半端な原稿を流すのが、いちばんよくないです)

→過去の同じ話題の原稿などを見て、書き方を直したりする。直したものを取材担当の人に送ってあげるとよいと思います。

・昼放送をつくる上での注意点いろいろ。。。

→昼放送開始時間の確認

短縮授業など、特別な日程になっている時

→その日の予定の確認

午後や、放課後に何かあるとか。5・6時間目が総合学習の時などは特に、昼放送に予定としてちゃんと入れるようにしましょう。

→招集など、連絡すべきことがあるか

招集関係の連絡は、各クラスや生徒会掲示板に貼ってある紙を見て入れます。入れる場所は、昼放送の最初の、音楽が入る前です。朝のSHRで連絡があったら、自然と、「昼放送に入れなきゃ!!」という思考になるくらい、放送委員としてのアンテナが高くなるといいですね。

→月曜日と金曜日の原稿

基本的に予定だけで大丈夫です。ただ、短すぎる場合や、流さなければいけない原稿がたまっている時には、普通の原稿も入れるようにしましょう。

→担当の確認

公欠の人がいないか、くらいは確認しておくべきです。

→しゃべりやすい改行

過去原稿を見れば大体わかりますが、スペースの取り方などを考えましょう。音声表現のミスを防ぐため、意味区切りで空白や読点を入れ、音(声)の立て直しで改行するなど、工夫してください☆

→部活などの話題は結果がよかったものから。あとは日付順にして時系列がおかしくならないように!

→取材の人の名前

たまに原稿だけで名前が入ってなかったりします。頑張って取材した人が悲しくなるので、ちゃんと(取材: ○○)といれるようにしてください

→昼放送の最後の文の書き方など

昼放送の最後の文は、月曜日から木曜日までは、「では、またあした♪」。金曜日は、「ではまた～♪」になっています。間違っても金曜日も、「では、またあした♪」としてしまうことがあるので、作る時に気をつけてください。また、金曜日の放送の最後には、「週末です。貴重品の管理と自転車の二重ロックを…」のような文章がはいるので、忘れないでください)

→過去原稿で定型的な文章は確認

「では、きょうもみなさんの活躍をお伝えします」のような文はきちんと入れてください。くれぐれも、いきなり部活の原稿を流したりしないように!!ただ、初戦敗退などの時に「活躍」と書くのはやめましょう。終わった後も、「以上、きょうは…」のような文を入れる。いきなり、「では、天気予報です」はダメですよ～

→過去原稿の有効活用

過去の原稿を見ていると、その時期にやらなければいけないことが発見できたりして、とっても役に立ちます。それにとらわれすぎるのもよくないですが、活用できる部分は有効に活用しましょう。

→出来たら必ず声に出す。そして、必ず他の人にもしゃべってもらう!!

これがいちばん重要です。実際に声に出してみると、しゃべりにくい部分や変な文に気づくことが多いです。自分はいいいと思っていても全然ダメだったりするので、他の人のアドバイスももらいましょう。昼放送が出来上がったら、全体に同報メールを送って、変なところや気になるところについて返信を求めればよいと思います。デスクさんから原稿が送られてきたら、みんな必ず返信しましょう!返信がないと、その原稿でいいのか悪いのか、目を通してくれたのか見ていないのかすらわからなくなって、デスクが困ります。目を通して「大丈夫だろう」と思っても、「これでOKだと思います!」くらいは必ず返信しましょう。

・原稿が出来たら

→仮印刷

USBで持って行って、奥の左のパソコンから一部ずつ出す。話題の途中でページが切り替わらないように、印刷プレビューでページの変わり目を確認して、印刷する前にきちんと改行してください!確認しないと中途半端なことになって、余計面倒くさくなります…

→アナウンスする人など、担当を決める **※詳しくは別紙の昼放送原稿例参照(´ω´)♪**

まず、線をひいて原稿をわけます。一度きって音楽を大きくしたあと入り直す部分は二重線、そのまま続けて入るときには普通の一本線をひきます。きり方はデスクさんのお好みですが、最初のアナウンスと音楽の間は必ず二重線です。長い原稿になってずっとアナウンスだと、聞いている方も疲れるので、考えて二重線を入れるようにしてください。昼放送に必要なのは、アナウンス、卓、BG、DIRです。アナの順番は、最初が1A、次が2A、あとは、1B、2B、1C…という感じです。数字でマイクの番号、アルファベットで順番を表しています。人がいない時には、卓・BGを1人にしても大丈夫だし、しゃべり終わった人をどんどん回していくという形にしてもOKです。

→印(増)刷

顧問の先生に頼んで、印刷室で増刷してもらってください。数は、担当の人+1くらいで大丈夫だと思います。

・昼放送

→その週のデスクさんは、担当でなくても行くようにしましょう!!

文が変だったりしゃべりにくかったりして、話す人が直したところはきちんとチェックして、あとでパソコンの方に反映。もちろん直されないのがいちばんだけど…。

・下校放送

→基本的にその週のデスクさんが作るものです。詳しくは、『その6♪昼放送・掃除放送・下校放送』の、下校放送の欄を見てください。

・担当の週が終わったら…

→自分の週で流せなかった原稿は、次のデスクさんにきちんと引き継いでください。あとは、自分が一週間やって気づいたことや、アドバイスなどがあれば、それも伝えましょう。

よいデスクとは…

- ・原稿がだめなら差し戻し、時には破棄できるデスク
送られてきた原稿を全て流す必要はない。原稿は生ものなので、鮮度が落ちたものはもちろん、内容がないものなども流せない。「これは流す必要がない」と判断する力をもつ。
- ・添削をしっかりと、原稿の言い回しの統一を図れるデスク
- ・時節に合わせた内容を、考えて原稿に入れられるデスク
- ・放送する原稿が足りない時には、自分で原稿を書いたり他の人に新しい原稿を書かせられるデスク

悪いデスクとは…

- ・送られてきた原稿を鵜呑みにして、疑ってかからないデスク
- ・すべての原稿を、ただ垂れ流すデスク
- ・必要な情報を書き落とすデスク
- ・昔の原稿を参考にできないデスク
- ・根性もプライドもなく、ただ自分のデスク期間を乗り切ることだけを考えるデスク、などなど…

・最後に…デスクさんにいちばん大切(だと思われる)なこと

絶対に妥協しない!! 投げ出さない!! 本気でやる!!

微妙な放送はダメだし、嫌だからね(´ー`)┐

※昼放送原稿例※

--- 昼放送 20100115F (2208 大原望緒・2302 荒井香澄・2339 矢幅理央子・2341 弓岡千恵・2804 小笠原舞子・1125 菅原千晴・1209 神山遥・1226 藤澤苑未) ---

時刻は1時10分になりました。
みなさんこんにちは。
1月15日 金曜日、お昼の放送です。

はじめに、應援委員会から 連絡です。
あすからセンター試験にのぞむ3年生への壮行を、このあと、生徒玄関前でおこないます。
校歌とエールで3年生を激励したいと思いますので、1・2年生のみなさん、ぜひ参加してください。

3年生への壮行を、このあと、生徒玄関前でおこないます。
1・2年生のみなさん、ぜひ参加してください。

以上、連絡でした。
(音楽)

3年生のみなさん、いよいよ、あすとなりました。
センター試験では、思い切り活躍してきてくださいね。

なれない会場で、緊張することもあるでしょうが、緊張をほぐす秘訣は、笑顔をつくることです。
にこっと笑って、リラックスしてください。
リラックス笑顔で大事なものは、口元で笑うのではなく、目元で笑うことです。
目の笑顔をつくると、顔全体と、頭の筋肉がほぐれて、すぐに落ち着いた気持ちになります。
試験会場でにこにこしてると、変な人に思われるんじゃないのと心配する必要はありません。
みなさんは、いつもにこにこしています。

気になるお天気ですが、
あす、あさってとも、おおむねくもりの、おだやかな天気になりそうです。
あすの朝は、氷点下 7度、日曜日の朝は 氷点下 8度の予報です。
どうぞあたたかいかっこうで、7時20分に学校に集まってください。

センター試験の帰り道は、恒例の「雪灯り」が3年生のみなさんを迎えます。

では、週末から来週にかけての予定をお伝えします。
まず、きょう放課後の予定です。

1年生の予餞会録音、きょうは、1の7と1の8です。
時間は、1の7が 4時から、1の8が 5時からです。
録音は、放送室でおこないます。時間厳守をお願いします。
次に、入試や模擬試験の予定です。
あすとあさっては、すべての学年で、模試や入試があります。
3年生は、きょうはこのお昼休みで放課となり、土日のセンター試験にのぞむことになります。
センター試験の会場は、県立大学で、
3年生は、あすの朝 7時20分集合で、バス8台で出発します。
学校に戻るの、あすは、7時半頃、
あさっては、科目によって違ってはいますが、最も遅い科目で 6時40分頃です。
長丁場(ながちょうば)の試験ですが、ベストを尽くしてがんばってください。

1・2年生も、週末は、模擬試験です。

2年生は、土日に、進研模試、1年生は、土曜日に進研模試となります。

2年生は、5教科6科目の試験で、あすが朝8時から2時半まで、あさっては午前中です。

1年生は、あすの朝8時から2時15分まで、3教科の試験です。

大会など、部活動関係の予定です。

女子バスケットボール部は、きのうから 水沢でおこなわれている県新人大会に参加しています。

また、きょうから、

- ・水泳の県冬季選手権が 総合プールで、
- ・陸上の跳躍強化合宿が 宮城で、
- ・スキーの県大会が 安比高原でそれぞれおこなわれています。

あすから来週の月曜日にかけて、

男子バスケットボールの県新人大会が水沢でおこなわれます。

週があけて、来週は B週、予餞会まで、ちょうど 2週間です。

といっても、再来週には高校の推薦入試があるため、

実質的には、あと10日(とおか)ぐらいしかありません。

1・2年生のみなさんは、見通しをもって、予餞会の準備を進めてください。

以上、週末から来週にかけての予定でした。

なお、学校の予定については、一高のウェブサイトでも確認できます。

一高のウェブは携帯でも見られますので、ぜひブックマークしておきましょう。

ではきょうは、冬休み中から今週にかけてのみなさんの活躍をお伝えします。

まずは、女子ソフトテニス部です。 (取材：真衣)

ソフトテニスのインドア大会が、12月24日から26日に、一関でおこなわれました。

※内容省略※

次は、バレーボールです。

(取材：理央子)

春高バレーの地区予選は、12月25日と26日に、おこなわれました。

※内容省略※

次は、選抜大会準優勝の ハンドボール部です。

(取材：琴乃)

ハンドボールの選抜大会県予選は、先週の木曜日から3日(みっか)間、花巻でおこなわれました。

一高は 準優勝し、東北大会への出場を決めました。おめでとうございます。

※内容省略※

きょうの放送、おしまい、卓球です。 (取材：遥)
卓球の全日本選手権大会は、東京で、今週の火曜日と水曜日におこなわれ、
1の8 浅沼愛(あさぬまめぐみ)さんが県代表メンバーのひとりとして出場しました。

※内容省略※

以上、きょうは、
ソフトテニス、バレーボール、ハンドボール、卓球の各部の話題をお伝えしました。

では、天気予報です。
きょう 午後の天気は、_____
・雪の確率は、____パーセント、
・日中の最高気温は、____度、
・あす朝の最低気温は、____度の見込みです。

外国為替です。
現在、1ドルは____円____銭、1ユーロ____円____銭です。

きょうの担当は、大原望緒・荒井香澄・矢幅理央子・弓岡千恵・小笠原舞子・
菅原千晴・神山遥と、藤澤苑未でした。

週末です。
貴重品の管理と、自転車の二重ロックを心がけましょう。

ではまた～♪
(音楽F0)

その8行事などについて(´>ω<)

行事は重要なお仕事でもとねが「頼まれ仕事」だとおもしろくない…。

自分たちで工夫して、放送委員として他の人より行事を満喫しよう!

生徒会行事や入学式をはじめとする集会などは、いわゆる「頼まれ仕事」に属するものです。他の多くの高校の放送委員会は、このために存在して(させられています。でも、行事を「頼まれ仕事」とだけとらえては面白くないので、自分たちで目標をたてて、工夫して楽しく取り組みましょう♪

一体での生徒総会、集会、式など

一体で何かある場合、放送委員は先に行き準備をします。行くのが当たり前なので言われなくても忘れずに行くようにしてください。クラスの列に並んでのんびり行くような人は放送委員失格ですよ～。

※やること・注意点※

- ・調整室のカギを借りる。
一体の体育教官室にある。一体のすべてのカギが一緒についているので、面倒ですが調整室のカギを開けたら、一度必ず返しましょう。また、休日やスポーツ祭などの行事の時に、体育教官室が開いていなくてカギが借りられず、マイクが準備できない!という場合があります。毎年毎年これでミスをしているので、前日に必ず確認しておきましょう。
- ・式次第を入手して、担当の先生に色々な確認をする。
- ・マイクの準備
使うマイクの本数、場所の確認。何かあった時のために、予備マイクを必ず準備。緊急時に出勤する人も必ず決めておく。
- ・電池チェックを必ずする。それに伴って電池チェッカーを必ず持って行く。
- ・電池で”オキシライド”は使っちゃダメ
- ・マイクの高さ調節しっかり。おおよそしゃべる人(先生?)サイズに。
特に壇上マイクは高さ調節を忘れがちなので、首?の部分の調節をしっかりとやりましょう!!壇上マイクが低いと、話す人は調節が出来ずに困ります。
- ・マイクの音量調整
マイクテストのタイミングに注意。なるべく早く行って人が集まる前に完了させる。人が集まっているのにいつまでもマイクテストをしているとみっともないです。
- ・「マイクテスト、マイクテストです。あ～、あ～」はダメ
実際に何か文を話さないと、ちゃんとした音量調節は出来ません。そこら辺の生徒や先生ではなく、放送委員なので、「ただいまの時刻は〇時〇分です。これから〇〇〇〇〇が始まります。～～～」くらいは話しましょう。マイクテストの時は、音量を調節し終わるまで同じ人が話し続けましょう!!
- ・生徒総会などは生徒がざわざわするので、マイクの音量を大きめに設定しておかないと、全然聞こえないという事態になります。会場の状況を考えて音量を調節する力も身につけましょう!!
- ・カメラ、必要な時は出勤
壮行式、生徒総会などの時は撮影します。過去のテープを見て確認しておきましょう。
- ・一体の放送調整室のドアを閉める
調整室のドアが開いているとみっともないです。音や外の様子の確認なら、ドアを少しだけ開ければ見えるし聞こえるので、全開にしないで中にいる放送委員がチラチラ見えるなどという事態にならないように、くれぐれも気をつけましょう。
- ・調整室にける人数
人が多すぎても仕事はありません。放送委員は式に出ないで、仕事もせずにたまっていると思われたくないなので、最低限の人数にしましょう。

＝調整室の中での仕事＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1. 音響(2010年現在調整室にある機器の場合)

- ・いちばん下の主電源を入れる。
- ・マイクを出す時に、どのチャンネルがどこのマイクか必ず確認する。
マイクの電源を入れた時に、光がついたところとそのチャンネルです。間違わないように付箋か何か
に、「司会マイク」、「演台マイク」など書いて貼っておくとよいでしょう。
- ・音量は、基本的にいちばん上の大きな丸いやつ(?)で調整。
各チャンネルの根元をいじると一気に音量が変わってしまいます。極端に音量が大きかったり小さ
かったりして、上ので調節しきれない場合は、根元をいじりましょう。上の方も大きくしすぎるとマイク
がハウってしまうので、そこは適宜判断してください。
- ・終わったら電源を消し忘れない!

2. 調整室のステージ側のドアから外の様子を見て音響の人に伝える

次に誰がどこのマイクでしゃべるか。外で何か動きがあればそれも伝える。

3. 緊急出動

急にマイクがはいらなくなった時など、外でトラブルがおきた場合には、調整室から誰かがすぐに飛
び出して行って対処しましょう。

4. 原稿を書く

調整室の中にいると、話していることはクリアに聞こえますが外の様子は見えないので、動きがあっ
た場合は、あとで外にいた人に聞いて原稿にいれましょう。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

・調整室の中の電気はできれば消す

つけていると実は外から丸見えです。暗くて電気をつける場合は、窓からあまりのぞかないようにしま
しょう。外から見たら変な人です。

・集会中でも、マイクの音量の大小に気付いたら直す!

集会中に音量の大小に気付いたら、外にいるカメラ部隊の誰かが調整室に声をかけて、音を調整する
ようにしましょう。カメラ部隊に余人がいる意味は、ここにもあります。

・式が続くときなど

式が続く場合、隊形移動があります。その時に、演台はそのままでいいのか、マイクを使うのかなど、事
前に確認をしておきましょう。撤収できるものはすぐに撤収しましょう。

・集会後の片づけ

マイクや演題の片付けはもちろんですが、いすや階段の撤収なども、生徒会や先生方に仕事をさせな
いくらいのつもりでやりましょう。言われなくてもやるのが放送委員です。

・服装に注意。スカートの長さやボタンなど、目立つので注意されないように。

※式典(入学式・卒業式など)の場合※(上記の注意点にプラスして…)

・事前の確認+リハーサルをしっかりと!!

式次第入手、放送委員会の仕事、全体の動き、時間など。誰がどこで話す、マイクの移動などはあるの
か?ミスは絶対に許されない。

・式ではマイクはONのまま

マイクのON・OFFをいじれないようにビニールテープ?で事前にとめておく。とめたら必ず、そっち側を下
に向ける。ONのままにしてあることを必ず司会の先生などに伝えておく。電池は、当日の朝に新品に替
えるのを忘れずに!マイクをONにするのは、余計な電池の消費を減らすために、直前にしましょう。マイ
クが入ったままの状態になりますので、式の最中の音響は各チャンネルの根元で調節することになりま
す。根元をあげ忘れてしまうと、話しているのにマイクが入らないという最悪の事態になりますので、音
響はいつにも増して責任重大です。事前に行事の要項などをよく読んで、どのタイミングで誰がどこの
マイクでしゃべるかなど、頭に叩き込んでおく必要があります。ひとりで、根元の上げ下げと上の丸いや
つで音量調節をするのはなかなか大変なので、式の場合は音響に2人ついた方が負担は軽いと思いま
す。絶対にミスなくがんばりましょう。

・予備マイクを必ず準備。トラブル発生時の対応を素早く!!
 マイクが突然切れるなど、ハプニングが起こる可能性は常にあります。放送委員会のミスで大切な式を台無しにしてしまうというのは、いちばん恐ろしいことです。普段の仕事でももちろんですが、保護者や先生方、外部の方もいらっしゃる場所でミスをするのは委員会の今後にも関わることで、特に緊張感をもってのぞみましょう。予備マイクを持った人は、マイクがおかしくなった場合にすぐに交換できるように、調整室ではなく、先生方側の方に待機しましょう。舞台上でトラブルが起こった場合は、調整室から、司会などステージ下の場合は、外にいる予備マイクをもった放送委員が対応してください。機器の関係でミスが起こるのはしょうがないのですが、大切なのは、ミスが起こった場合にどう対応するかです。落ち着いて、素早く対応できるようにしましょう!

・ピンマイクを使う可能性あり

例年、卒業式では、送辞?でピンマイクを使います。ピンマイクを使う場合、準備はもちろん、音響が大変になるので、事前にしっかり確認して対応できるようにしましょう。

・BGMを使用する可能性あり

入退場で音楽を使う場合があります。入退場ならそれにふさわしい曲を、退場後なら掃除放送など、考えて選曲してください。一体で音楽を流す場合、調整室にCD・MDプレーヤーを持って行ってつないで、流せるかどうかテストしなければなりません。事前に確認して早めに準備できるようにしましょう。

＝卒業式に準備するカメラ関係のもの(2009年?2010年?版)＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

☆上カメラ(カメオさん)☆

- ・DVテープ60分×2(+予備1)
- ・急速チャージャー×1
- ・バッテリー×2
- ・三脚×1
- ・ヘッドホン
- ・ACアダプタ×1
- ・ドラム×1
- ・たこ足(下用、吹部も使うから)
- ・すずらんテープ×1
- ・ガムテープ×1
- ・ビニールテープ×1

☆イギリスカメラ☆→リモコン操作

- ・DVテープ80分×1
- ・チャージャー×1
- ・ACアダプタ×1
- ・ドラムコードリール×1
- ・マイク(集音)×1
- ・イヤホン×1
- ・三脚(@二体教官室)

☆下カメラ(カメコさん)☆

- ・DVテープ60分×2
- ・急速チャージャー×1
- ・バッテリー×2
- ・ヘッドホン
- ・インタビューマイク
- ・三脚×1

＝＝＝

白堊ホールでの講演会など

一体と同じく、白堊ホールでも音響や設営の仕事はあります。プロジェクターなど機器を使う可能性も高いので、事前の確認が大切になります。白木だからといって油断せずにきちんと仕事をしましょう♪

・マイク準備

主電源はいちばん下! いちばん下を押すと上の機械の電源も全部つくので、間違っただけでどこかの機器だけ電源を入れないようにしましょう。マイク準備に関しては、一体の時とあまり変わりありません。

・スクリーン、プロジェクターなど

講演会で映像を使う場合があります。当日にバタバタしないように、担当の先生に事前に確認して、機器関係はできるだけ早めに準備しましょう。スクリーンの高さは、いちばん後ろの人まで見えるように、白堊ホールのいちばん上に向かって確認してください。プロジェクターのつなぎ方などは、わかる人を中心にがんばってください。

・電気の付け方、消し方

電気は基本的に全部つけます。ただ、プロジェクターを使う場合、暗くするために電気を消します。その場合は、後ろの長い電気2列、丸い電気3列を残して、あとは消してください。講演会の途中からプロジェクターを使う場合などは、電気を消したりつけたりする電気係を決めておくとよいでしょう。

・カーテン

スクリーンを使う時には、カーテンを閉めなければなりません。窓を開けている夏場だと、カーテンがブオンブオンなって大変な時があります。そのような時も、カーテンを押さえるとかとめるとか、気を利かせて動けるようにしましょう!

・いす、机、演題など

先生方や講師の方のいすなどは、気を利かせて出すようにしましょう!

・撮影を頼まれる場合あり

撮影した映像を使う趣旨などを聞いて、引き受けるものは引き受けましょう。

・ニュース原稿は、もちろん言われなくても書く!

校内行事

行事のたびに、放送委員会には仕事があります。放送委員会(特に行事ごとのチーフ)は、生徒会や團、実行委員会との連携をうまく計りながら、計画的に準備を進める必要があります。行事では、放送委員会は正直どこの組織よりも忙しく(?)なります。しかしそれを、「私たちはこんなに仕事してるのよ!なんで他のところはやらないの!」とひけらかしてもしょうがないので、黙って黙々と仕事をしましょう。それが、放送委員会です。えらそうにしている周りからの印象が悪くなるだけで、そのような態度でいると、私たちがいくら本当になんばっていても誰も感謝はしてくれず、ミスした時にだけ「なんだよ放送委員。いつもえらそうにしてるくせに」と思われてしまいます。何もいいことはありません…。

裏でひたすら準備をして、行事が円滑に進むように努力する。周りには、たま～に、「そういえばいつも放送委員会ががんばってるなあ」と思われるくらいがちょうどいいのです(笑)そんな、縁の下の力持ちのような存在でいたいものです。

行事の場合、私たちは基本的にずっとサテライトスタジオでお仕事です。遊びに行くとか、クラスに行くということはあまり期待しないでください。それが嫌な人は放送委員をやめましょう←。大変なようですが、絶対にやりがいがあります。普通の人とは違った意味で、行事を満喫できますよ★

では、各行事の簡っ単な概要だけ説明します。詳しいことは、やればわかる♪←

①運動会(5月13日)

行事関係の集大成。2・3年が中心となって運営します。すべての放送を校舎外でおこなうので、準備と撤収に最も手間がかかる行事です。運動会前日には、放送委員は全日公欠で、準備をおこないます(ただしカメラ1台は、白聖パレードの撮影に出勤)。

放送は、外の本部テントに出したアンプ・スピーカーなどを、校内放送設備とケーブルで結んでおこないます。観客対策(コードの安全確保)と雨天対策には毎年苦勞しています。前日はおよそ5・6時間かけて設営をし(順調にいけば)、白聖幼稚園や猛者踊りのリハーサルでの音響チェックなどまでおこないます。音響チェック終了後、機材などはいったん、ピロティーや家庭科実習棟に撤収します(盗まれるといけなし、機材を外にさらしておくのは危険すぎます)。

放送委員は、当日の朝も7時前から総出で設営にあたります。運動会中も自分の競技の時以外は基本的に本部席での仕事になります。運動会では実行委員会が進行をおこなうため、音響と記録撮影が仕事の中心となります。事前に実行委員会といかに連携をとれるかが鍵を握る行事でもあります。

終了後の撤収作業(機材清掃・収納)は、後夜祭のころまでかかります。1年生が放送委員として行事の仕事に参加するのは、実質この片づけからとなります。片づけで、1年生には『返し巻き(ケーブルの巻き方)』を必ず修得してもらいます。2・3年生は指導!!

運動会は、3年生が放送委員として仕事をする最後の行事です。その点で、2年生がいかに仕事を引き継げるかが重要になってきます。「来年は、自分たちだけで配線・設営までやらなければならない」ということをしっかり頭において、自覚を持って動きましょう。

※準備日が万が一雨の場合は、とても大変なことになります。その場合、学校に泊まり込みで深夜から設営ということがありえます。みんなで準備日に絶対雨が降らないように、祈りましょう!!(切実)

☆クラス旗の取材☆

行事のたびに各クラスの何かしらの取材がついてくるものですが、運動会は『クラス旗』の取材です。クラス旗の原稿は、入場行進の時や昼放送でも紹介することになります。クラス旗の取材は、1年生が(ほぼ)初めておこなう取材です。2・3年生は、初期段階での原稿指導はあまりおこなわず、思う通りに書かせてみて、あがってきたものにアドバイスをするようにしましょう。最初から指導をしたり過去原稿を見せすぎたりすると、1年生の力になりません。自由に書くのも力なので、まずは自由に♪がんばらせましょう!!

②スポーツ祭(6月下旬)

この行事から放送委員の3年生は入らなくなります。その一方で、実行委員には3年生も多いです。ですので、1・2年の放送委員にとっては、行事運営の引継ぎを、他の組織の3年生から受ける機会ともなります。

スポーツ祭では、本部を生徒玄関前のホールに設置して、放送も本部のサテライトスタジオからおこないます。サテライトスタジオ設置は大体前週末におこない、テストを兼ねて通常の校内放送を1週間ここから実施します。スポーツ祭の間アナウンスはすべて放送委員会がおこないます。競技進行に関する情報は基本的に放送でしか流れないので、短時間で正確な情報を端的にまとめ、的確に伝えることが要求されます。定型の文に情報をあてはめて原稿としていて、最近では、英語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、ベンガル語などの結果放送も加えて遊んでいます(いや…遊んでいるわけではない)。

☆クラスTシャツの取材☆

スポーツ祭で流すのは、クラスTシャツの原稿です。各クラスの原稿+実行委員会と教職員チームのものを取材します。取材をする時には、Tシャツにひとりひとりの名前を入れているクラスには、特徴ある名前になっている人がいないか聞くなど(笑)、工夫すれば原稿はいくらでも面白く書けると思います♪

③白聖祭(8月下旬)

仕事の量が他の行事の3倍以上になります。スポーツ祭と同じく、本部でのアナウンス、運動会と同じく、第一体育館での音響、白聖ホールでの白聖リサイタル関係の音響、全般にわたる撮影が入ります。白聖祭のどの仕事を誰がやるかについても早め(運動会頃から)に計画をたてて(特に撮影関係)、それぞれの行事での仕事が白聖祭での「一人前の仕事」につながるよう考えていく必要があります。

また、白聖祭はお祭りなので、学校全体がにぎやか遊びモード(?)になります。放送委員も楽しむ分にはかまいませんが、あくまでお仕事だということを忘れずに。特にサテライトスタジオでぐだぐだするのはやめましょう。玄関から入ってすぐのところなので、非常に目立ちます。あとは、サテスタで仕事をしている時に持ち場を離れることがないように。いきなり友だちが来て、「わ～!!○○ちゃ～ん!!」とか言って走って行かされると、仕事に差し障りが出ます。ご飯を買いに行ったりお店を見に行ったりする時には、必ず代役を頼んで、楽しむ時には楽しむ、仕事の時には仕事と、切り替えをしっかりとしましょう♪

※放送委員会は、白聖祭でコスプレをする集団ではありません(2009年は異常でした)。

☆各クラスの出し物(?)の取材☆

取材するのは、各クラスの出し物(おばけ屋敷は、ふたクラスでひとつと考える)、展示やリサイタルなどおこなう部活など(2009年現在、囲碁将棋・英語・化学・茶華道・写真・書道・生物・天文・美術・文学研究・物理・無線・アニ研・弓道・応援団・寮展示・中夜祭の軽音楽・吹奏楽・音楽・演劇・ダンス同好会・白聖リサイタル・白聖の翼・生徒会展示)です。取材対象が多いので、白聖祭の取材はおそらくひとり2つ・3つくらいになると思います。原稿をまとめるチームも相当大変になりますが、がんばってください。詳しい書き方、つなぎ方は、過去原稿を見ることをおすすめします。原稿と原稿のつなぎが非常にスムーズです。(例: 校舎を2階から3階にあがって、次は～。)これまたとても楽しく書ける原稿だと思うので、白聖祭にふさわしく、聞いている人がフツと笑えるような放送を目指しましょう☆

④1年生研修旅行(12月)

1年生の研修旅行期間には、それぞれのコースの様子をお昼の放送で流します。現地から1年生の放送委員が毎日原稿を送り、それを2年生がまとめて次の日(?)のお昼の放送で流します。学校にいる2・3年生や先生方に、1年生が研修旅行でどんなことをしているか伝える、いわばレポートです。原稿に後輩の名前が出てきて、「なんだ、○○、そんなことしてんのか～」と言っている声や、「そういえば去年はさあ～」と懐かしむ声も聞かれます。

研修旅行では、事前取材もおこないます。事前にできるだけ早く自分のコースの資料を手に入れ、各班の計画を見て、他の班とは違う特殊なことをするグループや、取材したらおもしろそうなグループにあらかじめ目をつけておきます。事前取材では、研修旅行に向けて楽しみなことなどを聞いて、「もしかしたら研修旅行期間中もお話聞いたりするかもしれないからよろしくね」とひとこと言っておくと、実際の旅行期間の取材が楽になります。

当たり前ですが、放送委員は研修旅行期間中に、他の人たちと同じくただ楽しんで旅行できるわけではありません。常にメモ帳を持って、移動中も話をメモしたり、ひたすら原稿を打ったりということになります。夜部屋に帰ってからも、原稿をあげるまでは寝れません(あげてからも、原稿が返ってくる可能性があるので油断できません)。…というように、研修旅行での原稿は、体力的にも精神的にも正直大変ですが、取材することや話題を発見する楽しみを身を持って感じる貴重な機会となります。いつもは学校の中で一高生や先生に対しておこなう取材ですが、研修旅行期間中は、まったく知らない土地で過ごすこととなります。つまり、普段話しを聞く機会のない人に取材ができる絶好のチャンスです。一高生や先生方に話しを聞くのはもちろんですが、現地の方(職人さんとか特にいいよ)にどんどん取材しましょう。その際、お名前を聞くのを忘れずに!!研修旅行で取材の楽しさに目覚めるといふ人も毎年少なくないようです(詳しいことは、先輩方にうかがってみましょう!!)。

各班の自主研修や先生方の自主研修は、できるだけたくさん取材して原稿にしましょう。同じコースに放送委員が何人かいる場合はみんなで打ち合わせて、効率的に取材しましょう(同じ班を何人もの放送委員が取材しても、しょうがありません)。もちろん、自分の班の原稿も詳しく書きましょう!

研修旅行期間は、取材して原稿を送る1年生だけでなく、まとめる2年生がとて大変な期間となります。おおよそ夜中にあがってくる3コース分の原稿を毎日添削して、流せる状態にまでしなければならないので、体力的にも大変です。各コースの担当を決めて、負担がかたよらないように、協力してがんばりましょう。妥協するのはいばんダメです!!容赦なく原稿を返して、いい原稿を作りましょう。出発前に後輩への説明や締切の確認など、事前に綿密に計画だてておくといひでしょう。

ちなみに研修旅行期間中に流した原稿は、1年生の研修旅行記(南西見聞録?)の後ろに付録としてつけます。放送を聞いていない1年生も、これで自分達がどうりポートされていたか知ることになります。

⑤予餞会(1月下旬)

実行委員会にとっては、行事の新人戦にあたります。放送委員会にとっては、スポーツ祭から3回目の校内行事で手なれた時期にあたるので、むしろ放送委員会がリーダーシップをとることでスムーズな運営を引き出すこともあります。

予餞会では、機材をマリオス(2010年より。それ以前は公会堂でおこなっていた)に移設しておこないます。他の行事に比べ、映像・音響関係の仕事が圧倒的に増えます。準備期間には1年生の各クラスの劇の録音を放送室でおこなうほか、2年生の各クラスが提出したビデオのチェック(差し戻し?)をしています。

1年生の劇の録音は、16:00~17:00、17:00~18:00の2回に分けて、1日ふたクラスずつ、4日間でおこないます(2010年現在)。録音の日程は、生徒会側との調整になりますので、上手く連携をとって、早めに予定をたてられるようにしてください。放送委員会側も、オープニングビデオの作成時期でとても忙しいので、取り直しや、終わらなかったから別の日にやるということはできません。毎年時間がおしてバタバタするので、各クラスに事前に台本をもらって、とるシーンごとにあらかじめ区切る、録音が大変だということをきちんと伝える(1時間しかないから、とり終わらなくても知らないよ!)、時間通りに始める、放送委員会側の機器の準備を早くする、最初の説明(マイクのON・OFFなど)をスムーズに出来るように事前に委員会内で確認するなど、万全の状態でおこなえるようにしましょう。

録音の主な仕事は、MD・卓、DIR、ミキサーの調整です。詳しいやり方は、(きちんと受け継がれているはずですので)先輩が後輩に教えてあげてください。マイクは2本たてて録音します。MDの後ろにトラックナンバーを書く(例: シーン1はトラック1・2・3はダメで、4はOKなど)クラスの代表の人をつかせるのをお忘れなく!終わったら、MDのツメの説明とか、MDのいらぬトラックは後ろから消すんだよ!っていうような話をしてあげましょう。

ちなみに、予餞会の録音期間は補習授業の時期とかぶるので、気をつけないと放送委員会側のスタッフが足りなくなります。録音スタッフは1年生中心にしていくので、1年生は特に気をつけてください。次の年に後輩に教えられないよ!!忙しくても勉強だけはちゃんとやるようにしましょう(せめて補習に引かないくらいね)。放送は、あくまで委員会、高校生活の中心は、やっぱり…勉強だからね。

＝予餞会1年劇MD録音マニュアル(簡略)＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

☆準備☆

(卓)

- ・放送区域をはずす
- ・MDのラインを切る
- ・スタジオのライン入れる
- ・リハーサルしてもらいながら赤に入らないようにスタジオのラインで調整する

(レコーダー)

- ・MDを入れる ※MDのツメが録音可になっているか確認する
- ・RECORDを押す→RECの一時停止の表示になる
- ・右端のINPUT SELECTORをANALOGにする
- ・左上のINPUTは8.3で固定する

(ミキサー)

- ・PHANTOMをOFFにする
録音ではダイナミックマイクを使うため。昼放送用にコンデンサーマイクに戻す時に復元

☆本番☆

①PLAYを押す

②READYで止める

- ・基本的には①と②を繰り返す
- ・絶対に赤に入らないように調整。

☆録音内容を聞く☆

①レコーダーのSTOPを押す

②卓のMDのラインを入れる

※録音を再開するときは卓のMDのラインを必ず下げる

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

また、予餞会では放送委員会として、『オープニングビデオ』を作成します。これは、3年生の3年間の様子を曲にのせておよそ4分間にまとめるもので、新人大会が終わったら、1・2年生はひたすら過去3年間のテープチェックとなります。他の番組と違い、予餞会では、見た3年生の反応を直に見ることが出来るので、そこでいかに3年生に喜んでもらえるか、3年生を笑顔に出来るかが制作する上での悩み所であり、励みにもなります。予餞会ビデオは凝ろうと思えばいくらでも凝れるので、完成が間に合う程度にがんばりましょう★

☆各クラスなどの出し物の取材☆

予餞会で取材するのは、1・2年の各クラスと、ステージ発表をする部など(2010年現在、音楽部、吹奏楽部、応援団、先生方の出し物)です。ネタバレOKのラインは気にしつつ(笑)、おもしろく書きましょう♪1年生のクラスの取材担当になっている場合は、出来ればそのクラスの録音の様子を見ておいた方が雰囲気をつかめていいと思います。

⑥外部から依頼される仕事

このほか、「頼まれた仕事は断らない」を(一応の)モットーに、他の仕事と重ならない限り、できるだけ仕事を引き受けるようにしています。依頼を受けての仕事としては、講演会や大会・演奏会などの司会・アナウンス・音響・録音・撮影などがあります。ただ、無理なものは断わらないと自分たちがツラくなるので、時期や締め切りなどを確認して、責任をもってできるものだけ請け負うようにしましょう。

陰アナの原稿については、各部や担当の先生に話をし、なるべく早くいただけるようにしましょう。もらったものをそのまま使うのではなく、放送委員会なりにアレンジしたり(最後に天気予報をいれるとか)、しゃべりにくい部分を変えたりということも必要です。

⑦その他の行事・イベント

生徒会オリエンテーション、壮行式などの生徒会行事では、生徒会と連絡をとりながら、音響・映像・撮影などをおこなっています。入学式・始業式・終業式・卒業式・避難訓練・学年集会などの行事も、マイクやスクリーンなどの機材を使うときには、依頼がなくても仕事をしています。

民間の放送局には、事業部という部署があってコンサートなどのイベントを企画しています。そのイベントは、のちにその局の番組の題材にもなるわけですが、放送委員会でも日常の取材からうまれたアイデアをもとに、次のような企画をおこなっています。

- ・制服、赤本リサイクル(離任式の日卒業生に使わなくなった制服・赤本を寄付してもらい、4月に新2・3年生に無料配布するもの)
- ・雪灯り(センター試験がおこなわれる2日間、センター試験が終わった3年生を迎える企画。校地内の雪がつもったところに穴をあけて、ロウソクを立てておこないます。調子に乗るとロウソクをたくさん使ってしまうので、多めに購入しておいた方がいいかも。詳しいプランや場所については、予定を書いた例年のテキスト文書や、雪灯りを撮影したテープを見て確認しましょう!)

☆各行事に共通しての注意など☆

- ・まず実行委員会・生徒会・團との連携!!!!!!
- ・個人個人の活動不可時間の確認。
- ・放送委員会で公欠をとる場合は早めに顧問に連絡を。
- ・各行事のチーフは計画的に。連絡を徹底。
- ・放送できる区域の確認(例: スポーツ祭の場合は、一体・二体で試合をしているので昼放送や掃除放送は区域から外す)
- ・携帯電話の携帯。急な連絡や変更などが必ず発生してしまうので、いつでも放送委員内で連絡が取り合えるようにしましょう。
- ・すべて早め早めの行動を!

その9 校内放送に関する様々な歴史(☆○☆)

盛岡一高放送委員会の一員として活動する上で、放送委員のみなさんには知っておいていただきたいことなので語ります。

一高放送委員会は2001年から、昼放送を含め本格的な活動を始めました。2001年4月～2009年3月の8年間顧問をつとめた、菊地達哉(きくちたつや)先生がいらっしやってからです。先生が転任なさる2009年3月までは、スケジュール管理を含め、昼放送のまとめの一切などは、先生がおこなっていました(取材や番組作りはもちろん生徒です)。

菊地先生が2009年3月に岩谷堂高校に転任することになり、それまで先生がやってきた仕事をすべて生徒の手でおこなうことになりました。昼放送のデスクという仕事が生まれたのは、この時からです。先生が転任するにあたり、これまでやってきた活動の上に昼放送を自分たちの手でまとめるという負担が加わって、果たして続けていけるのか、当時の放送委員は悩みました。始めは、「天気予報だけでも続けよう」、「昼放送は週3回にしよう」という妥協策もありましたが、がんばって毎日続けてみようということでもやり始めました。

デスクを始めた当初は、時間がかかるわあがってくる原稿はボロボロだわで、学校での作業だけでは終わらず、家に帰ってからも深夜まで(夜通し?)原稿と格闘し、次の日も朝5時から学校で作業し、授業の間の休み時間のたびにダッシュして放送室にきて原稿を作り、なんとか昼放送に間に合わせるという日々が続きました。体力的にも精神的にも学校の勉強的にもツライ毎日でしたが、昼放送を中途半端にできない、続けなければならないという強い気持ちで、ボロボロになりながらもなんとか続けていました。後で聞いた話によると、他の先生方からは、「菊地先生がいなくなったら一高の昼放送は1週間で終わる」と言われていたようです。(しかし、2009年4月～2010年7月まで、とりあえず1年半続けることができました。)

そうして毎日続けているうちになんとか安定してきた昼放送でしたが、4か月たった8月に代わりしてから、先生方や事務室からの風当たりがだんだんと厳しくなり、放送できる範囲や時間を狭められつつありました。当時の顧問の鈴木雄平(すずきゆうへい)先生には、「これ以上放送に制限をかけないでほしい」という私たちの気持ちを伝え、職員会議などで何度か意見していただきましたが、それもなかなか認められず、私たちも、悔しいけれど先生方相手ではどうにもできないもどかしさに頭を悩ませていました。生徒総会にかけるといふ考えもありましたが、結局『お願い文書』という形で作って提出をしました。できれば全部を元に戻していただきたいという主張にしていたのですが、面談旬間の放送はどうにもできないと言われてしまいある程度妥協した形になりました。以下提出した文書です。

20091208TU 放送委員会からのお願い

放送委員会は 生徒会会則により、「校内放送・行事における放送をするほか、放送機材を管理する」ことが「主な任務」と定められています。

生徒会会則第39条

各専門執行委員会の主な任務

1.放送委員会は校内放送・行事における放送をするほか、放送機材を管理する

しかし今年になって先生方から、改善提案の形で校内放送に対する要求があり、結果的に、私たちの放送できる期間や場所が制限されてきています。

・9/29TU

- ①各学年の面談旬間期間、お昼の放送は各学年の廊下を区域から外すこと。
- ②1階廊下は、音量を下げて放送すること。(音量を8から7に下げました)
- ③考査前の部室一斉清掃後から、お昼の放送 下校放送はおこなわないこと。

↓↓

・10/19M

④面談旬間が終わって区域を通常通りに戻したところ、1階廊下には、面談旬間期間には関係なく、常に放送を入れてはいけないと言われた。(音量が7でも高いとのこと)

(来客対応、電話の対応のため)

以上のことに対し、放送委員会として、次のことを先生方に要望いたします。

生徒会会則第39条の、「放送委員会は校内放送(中略)をする(後略)」の定めを、わたしたちに保証してください。

④について

→1階廊下に音を流せないというのは、放送の音量調節をする面で非常に不便です。放送室で放送をしても、1階廊下が区域に入っていないとそれが適切な音量で流れているかどうかはわからず、今は上の階で音量を確かめる人をつけてなんとか放送している状態です。音量調節ができずに不快な放送を届けてしまうのではないかと、とても不安です。

音量はさらに一定量下げますので、面談旬間以外は1階廊下への放送を認めていただきたいです。来客の方には、これが一高のお昼休みです、という形で納得してはいただけないのでしょうか。

③について

→部室一斉清掃終了後から考査前日まで、下校放送だけでも認めていただきたいです。応援委員の校歌で一日が始まり、放送委員の「ではまたあした～」でおわるのが一高です。「下校放送を聞くまでがんばろう」と言って、残って勉強している生徒もいるようです。追い出し放送では、気持ちよく帰れないのではないかと思います。ましてテスト期間は 下校時刻まで残って勉強している人が多いと思います。私たちに下校放送をおこなわせてください。

下校放送があるという理由で活動停止期間中に放送室に放送委員が残っているのがよくないということとを反省して、委員会内で対策を考えてみました。このような形でも認めてはいただけないでしょうか。

→下校放送のために残る最低人数の人材を確定させる(アナ、ディレクター、BGMで3人)

→下校放送は6時15分からのので、準備に必要なぎりぎりの時間(6時5分ころ)までは放送室には立ち入らず、それぞれが教室などで勉強をしている

→下校放送本番

→終わったらすみやかに帰る

私たち放送委員会は、2001年4月17日(火)から 8年以上、テストの日や、学年によってお昼休みがずれる日をのぞいて、休みなくお昼の放送を続けてきました(掃除時間の音楽放送と、下校放送も2001年4月開始)。

放送委員会は毎日、お昼の放送で各部の大会の様子などを伝えています。たまに教室での様子を見ていると、放送を聞いた人が同じクラスの友だちの活躍を知って驚いている様子をよく目にします。実際、自分のクラスの友だちが放課後にどんな活躍をしているのかを知る手段は、お昼の放送以外ではほとんどないと思います。

放送は本質的にじゃまなメディアです。だからこそ、伝える意味のある、聞こえてきてよかったと思っただけのような内容をめざして、毎日 取材をしています。

今年に入って、去年まで当たり前のようにやってきたことに対して 色々厳しいご意見をいただくようになり、放送委員会が放送をおこなえる期間や場所が狭められているという印象をうけます。このままだと、来年以降も含め、これからますます放送ができなくなっていくのではないかと不安です。

これ以上、私たちの活動意義である校内放送に制限をかけないでいただきたいと、切望します。生徒会会則にある放送委員会の活動を、これから先も毎日、私たちに保証していただけるよう、先生方に要望いたします。

この文書を副校長に提出したところ、とりあえずご理解はいただきましたが生徒課に話をしてくれということで、12月8日に生徒課の先生に持っていってお話をしました。その結果、1階廊下の放送に関しては、次の日(9日)から試験的に音量を下げて放送して、事務室の方と校長先生にどの音量ならうるさくないか意見を聞くこと。下校放送に関しては、次の考査(後期末考査)の時は特別活動願い(?)の紙を提出して、部室一斉清掃終了後から考査前までの下校放送は認めてもらい、来年からはその紙を出さなくても認める形にしたいと意見をいただきました。生徒課の先生は事情をあまりご存知ではなく、状況を知って非常に協力的に話してくださったのですが、結局要求をいろいろとしてきているのは教務主任の先生と学年長クラスの方々、それに、事務室と校長先生なので、その先生方に聞かないと生徒課の先生の方ではわからないとのことでした。

そこでとりあえず、1階廊下の放送の件について、12月9日(水)から12月11日(金)まで、通常8にしている1階廊下(チャンネル3)の音量を、9日は7.2に、10日は7に、11日は6.5にして放送しました。すると、この音量なら大丈夫とのことでしたので了解していただいたので、面談旬間以外は1階廊下も音量を少し控えて放送できることになりました。

それとあわせて鈴木先生から、放送を聞いていらっしゃるほかの方々に(前々から)言われていたこととして、「放送の音がうるさい」、「今年(2009年)に入ってお昼の放送の質が下がったように思う」というお話をうけました。前者の意見に関しては、どういうことかよくわからなかった(個人の声質の問題なのか、音量か、話し方か…)聞いたところ、うまく説明はできないのだが、擬態語を使って言えば“キンキンする”とのことでした。それ以後、あまり張り切って声を出すのではなく、落ち着いて、聞きやすいしゃべり方を目指して放送していたところ、そのような意見はいただかなくなりました。

この一連のことに関しては、放送委員の3年生が直接職員会議に乗り込んで、先生方に理解を求めるといった案もありました。しかしそれをせずに、このように文書という形で提出したのは、ただ単に「文書として提出してくれ」と言われたからではありません。これを私たちが一度文書として提出することによって、後にまた何か言われた時に、この文書を見せて「これ以上私たちの活動に制限をかけないと約束してくださいじゃないですか!!」と後輩たちが言うことができるようにというねらいもあってのことです。ですので後輩のみならず、もし同様に活動に制限をかけられそうになった場合は、この文書を見せてなんとか理解を得られるように戦ってください。

私たちが、菊地先生が転任なさってから完全に自分たちの手による委員会活動をおこなってみて感じたのは、やろうと思えばできないことはないということと、一度やめたら終わりなのだという事です。先生方の中には、放送委員会をつぶしたい人もいます。その先生方に反論したり、思いを主張して戦えるだけの強い気持ちを持つこと、それに伴った行動を見せること、それができないと、放送委員会はきっとあつという間につぶされます。

天気予報だけ?週3回が限界じゃないか?とっていた昼放送も、毎日放送してなんとか続けました。今思えば、もしあの時放送を週3回にしていたら、もう二度と、放送委員会が毎日お昼の放送をすることは無くなっていたのではないかと思います。無理ではないかと思うことも、やってみれば案外できるものです。そして、後輩のことや未来の放送委員会のことを考えれば、自分たちの代では何が何でも終わらさずわけにはいかないという気持ちになるはず。先輩方もそうして、つらいことを乗り越えて活動を続けてきました。放送委員会の活動は、そうして受け継がれてきたものだということを心して活動してください。どうしても現状の活動を続けられないという場合でも、一高放送委員会を、「ただの放送委員会」にするのだけは絶対にやめてください。

“盛岡一高放送委員会”の一員として活動する意味と、活動意義である毎日の校内放送に対して、意地とプライドを持って活動していきましょう。何年後かに遊びに来たときに、毎日の放送が廃れずに、むしろパワーアップして続いていることを期待しています♪

その10♪その他イロイロ(￣▽￣)

・工作中的態度

みんながお仕事している時には勉強しない。マンガを読んだりしない。自分のやれることを探して、何かしらできるようにしましょう。「予定が更新されてるかもしれないから見てこようかな」とか、「デスクさんが大変そうだから手伝おうかな」など、自分で考えて行動できる、気の利く人になって下さい。みんなが気の利く人になれば、それだけで活動は楽になるし、信頼関係も増して、最強の委員会になります☆…なるはずです。

・放送室で消しゴムは使わない

消しかすが機械の中に入って故障することがあります。放送室では基本的に鉛筆・シャーペンではなく、ボールペンなどを使って下さい。

・ドアの閉め方

普段はそのまま。鍵が開いているけど中に人がいない場合などは、半ガチャ。録音などの場合は全ガチャをお願いします。

・いらぬ紙類の整理

・ミスノートの活用

ちゃんと使ってますか??何か仕事でミスをした時には、そのミスについて書いておきましょう。黄色いレポート用紙みたいなやつです。同じミスは絶対に繰り返さないように!!。

・靴をしまう

放送室の前に脱ぎ散らかすのはやめましょう。

・片付けて帰る

パソコンやプリンターの電源など、くれぐれもつけっぱなしで帰ることのないように。あと、私物を散らかして帰っちゃダメだよ。

・鍵の管理

放送室を開けたら、鍵は必ず扉の裏にかけるようにしてください。適当な場所に置いていると、帰りに「鍵がない〜!?!」と真っ青になります…

・各自のスケジュール

来れない日にはホワイトボードに書いて、必ず名簿のやつに×をつけるようにしてください。それにプラスして、用事があるって休む場合などは、全員に同報メールで連絡をお願いします。家の用事の場合は、個人情報として許される範囲で、内容も書いてもらえるとうれしいです。「家の用事で休みます」だけだと、「家の用事ってなんだよ!!」ってつつこみたくなります。人がそろわないと仕事が出来ないの、なるべく休まないでください。放送委員会に、お休みは基本的にありません!!

菊地達哉先生のおすすめ文献

・放送って何なのか、わかりたい人へ

池上彰『わかりやすく伝える』技術』講談社現代新書2009-07

川辺秀美『22歳からの国語力』講談社現代新書2010-01

・うまく取材できる用になりたい人へ

NHK教育テレビ木曜10:45-11:00『伝える極意』

・声について考えたい人へ

村上由美『声と話し方のトレーニング』平凡社新書2009-02

・視覚(テレビ)と聴覚(ラジオ)の違いを考えたい人へ

養老猛司・久石譲『耳で考える』角川oneテーマ21(新書)2009-09

※みんなで読みましょう!!特に、『わかりやすく伝える』技術』は絶対ためになります。

あと、放送室の棚にある、『新・校内放送ハンドブック④』『新・校内放送ハンドブック⑤』をみんなで読みましょう♪ためになります。

ちなみに私のおすすめ文献

・実際のプロの現場を知りたい人へ

池上彰『記者になりたい!』新潮文庫2008-09

※池上彰さんの本はどれも参考になるので、読んでみるとよいと思います♪

マニュアル類 ~機械関係得意な方が作っ てくださいっ ていたよ~

①DV⇒DVなどダビングマニュアル

☆必要なもの☆

- ・DVカメラ二台
- ・DVケーブル
- ・ダビング元のminiDVテープ
- ・ダビング先のminiDVテープ

☆準備☆(【】内はイギリスカメラの場合)

- 1.二つのカメラをDVケーブルでつなぐ(つなぐ場所は取り込みと同じ)。
- 2.両方のカメラをつけ、VCRモードにする。
- 3.ダビング先のカメラをSPモードにする。
(メニュー⇒RECORDING SETUP【ロカ機能】⇒REC SPEED【ロカソウト】)
- 4.両方のカメラにテープを入れる。
- 5.ダビング元のテープを巻き戻しておく。
- 6.ダビング元、ダビング先の順でカメラをスタートする。

!!前にブラックビデオやカラーバー(などの捨てカット)が入っていないときは5a・6a。

- 5a.ダビング元を再生一時停止にする。(再生押してすぐ一時停止)このとき、ダビング先のカメラに画面が映っていることを確認する。
- 6a.ダビング”先”をスタートさせ、ダビング”元”を一秒後くらいにスタートする。

※同じような手順でDV⇒HDD(FS-100)とかできる。この時は、必ずHDDの方を先にスタートさせるようにする。

※ちなみにDVデッキを使う場合も同じ。ただDVカメラの方がたぶん信頼性が高い。

※miniDVではなく、おっきなDVテープにダビングするときはデッキを探し出してあげれば手順は同じ。

②HDDへのとりかたマニュアル(HPX-175編)

☆必要なもの☆

- ・HPX-175
- ・DVケーブル(6pin-6pin)
- ・FS-100(ハードディスク)

☆準備☆

- 1.カメラとHDDをDVケーブルでつなぐ(つなぐ場所は取り込みと同じ)。
- 2.カメラとHDDの電源をつける。
- 3.メニュー⇒OTHER FUNCTION⇒1394 CONTROLをOFFからEXTに。

☆後片付け☆

- 1.メニュー⇒OTHER FUNCTION⇒1394 CONTROLをEXTからOFFに。

※デフォだとP2にとれてしまうよ(・ω・)

最後に…、何事も やれば終わる!! つべこべ言わずに、 まずやれ!

おまけⅠ♪大会説明+アナウンス・朗読(´ω`)

盛岡一高放送委員会は、全国大会の常連☆全国にお友だちがたくさんできます～♪

一高放送委員会は、2010年現在、10年連続で全国大会への出場を続けています。そのため、全国に知り合いがたくさんいて、大会に行くと全国各地の人から声をかけられます。もちろんマスコミの人とも知り合えます☆

放送の主な大会

- ・6月上旬→NHK杯全国高等学校放送コンテスト県大会(県民会館)
- ・6月下旬→東北高等学校アナウンス朗読コンテスト(安比)
- ・7月下旬→NHK杯全国高等学校放送コンテスト全国大会(渋谷のNHKホール他)
- ・8月上旬→全国高等学校総合文化祭放送部門(毎年開催地は入れ替え)
- ・11月上旬→岩手県高等学校放送新人大会(県民会館)=東北大会・全国総文祭の予選
- ・1月下旬 or 2月上旬→東北高等学校放送コンテスト(県新人大会の東北大会)

その他、番組を提出しているもの

- ・6月上旬～下旬→岩手朝日テレビ 硬式野球部紹介番組『純情応援歌』
- ・11月上旬→テレビ岩手 高校生交通安全CMコンテスト表彰式(提出はもう少し前)
- ・3月→岩手朝日テレビ シリーズ『卒業』(予餞会ビデオを少し手直して提出)

放送の大会には、大きく分けて アナウンス、朗読、番組の3つの部門があります。そのうち、NHK杯は、アナウンス、朗読、ドキュメント(テレビ・ラジオ)、ドラマ(テレビ・ラジオ)、新人大会は、アナウンス、朗読、キャンペーン(テレビ・ラジオ)、ビデオメッセージ、オーディオピクチャーの部門でおこなわれます。

アナウンス・朗読に出場する人については、校内予選をおこなって決めます。年に何回かしかかない校内予選ですが、出場する人を決めるだけではなく、お互いのアナウンス・朗読について意見を言い合える貴重な機会となっています。

コンテストの部門のうち、一高が特に力を入れているのは、アナウンスとドキュメント部門です。どちらも、昼放送の取材の中から題材を選ぶことができる部門ですので、自分の見つけた話題をどのように伝えるか、悩み、苦勞し、工夫することが成果につながります。コンテストで入賞することは、活動のバネになります。また、題材が「お昼の放送」でみんなが知っているのも、帰ってから学校全体が喜んでくれます。コンテストの結果を、校内放送活動全体に対する評価として受け止めることができるように、これからも日常的な活動を充実させていきましょう♪

※大会にむけて(主にNHK杯全国大会)※

①事前の準備

- ・ついうっかり…というのをなくすため、余裕をもって準備する
- ・番組は、当日までの予定を組んで、納得した状態で提出できるようにする
提出用のDVDは、何度も見直して音や映像を確認する。苦勞して作っても書き出しがうまくいかないのは当たり前だと思う。ある程度のハプニングは予想しておく、冷静でいられる。
- ・アナ朗は、自分用と提出用の原稿を、予備も含めてなるべく早く準備しておく
事前にバタバタするのは周りも不安になるし、直前になって間違いに気づくこともあるので、アナウンスは自分用の原稿と、朗読は元の本の箇所とを確認して(自分で確認しておくだけでも不安なので、誰かにも確認してもらう)、絶対に間違いのないように。特にアナウンスは、原稿自体が直前に完成してバタバタする可能性が高いので、周りも協力してあげる。失格ほど悔しいものはありません。
- ・大会要項を熟読する
番組の提出媒体、締め切りなど、**全員が必ず確認**

- ・大会に何を持っていけば困らないか、全員が把握。分担も決めて、忘れ物がないように!!
番組の提出用テープ・予備テープなど番組関係、個人の原稿、デジカメ、ストップウォッチ、賞状の筒、お友だち用のDVD、アクセント辞典etc...
- ・全国大会に向けては、他の学校とお友だちになれるように、配る用のDVDを作る
自分たちの代の番組や、過去のものの中から選んで入れる。
- ・お互いに配慮しあう
番組を作っているのに、自分だけアナウンスの取材に行ったり、原稿を書いたり、しゃべる練習をするのはやめる。個人のことは自己責任なので、全員で集まった時にしかできないことを考えて行動する。番組は、編集する人だけで作るものではありません。
- ・大会日程や発表の時間など、わかるものは事前にきちんと確認しておく。
当日行ってから困らないように、電車やバスの時間・会場やホテルへの道順も確認しておくとい。会場にたどり着けなくて受付時間に間に合わないよ～なんて、しゃれになりません!!
- ・アナウンスの準決勝課題を予想する。「過去問」は報告号CDや安比の合宿で配られるので、自分で4本書いてみる。プログラム号に発表される準決勝課題よりいいのをつくってみましょう。

②大会前日

- ・まず受付
- ・プログラム号でアナ朗の準決勝課題などの確認
アナウンスの人は、当然準決勝まで進むつもりでそれぞれの課題をしゃべってみて、どれでいくか早めに決め、他の人にも聞いてもらう。朗読は、準決勝課題を確認したら、まずその本を探す(絶版など、簡単には入手できないものが選ばれる傾向が高い)。OB・OGの方がいらっしゃれば、その方に頼んで、大学の図書館などから本を入手してもらうのがひとつの手。
課題も私たちが普段やる朗読と同じで、その部分だけ読んで話すのと、全体の内容を知って、そこがどういう場面がわかってから取り組むのでは違う。本を手に入れて読んだら、あとは、その部分の解釈を、できるだけ多くの人で話し合ってみる(夜更かしはダメ)。インターネットで本について調べてみるのもあり。
準決勝課題、去年は立教大学図書館から、今年は豊島区図書館から入手できました。全部読んでから朗読できました～。

※朗読決勝課題予想※

朗読の決勝課題は、審査員としていらっしゃっている作家の作品の可能性が高いと予想される。

第57回大会、堀江敏幸さん『いつか王子駅で』

第56回大会、森絵都さん『カラフル』など

パンフレットの後ろの方に、審査員の方々のお名前は載っているので、早めにチェックして、著書を調べてあらかじめ予想しておくとい。本もできれば入手する。第57回大会は予想があたって、入手できていました。第56回大会は、既に読んでいた放送委員が何人かいました。

- ・会場確認
何をどこで発表するのか、場所や雰囲気の確認のため、会場を見ておく。開いていれば、実際にそこでしゃべってみる。
- ・日程・予定の組み方
パンフレットを見ながらタイムテーブルを作って、今どこで何がおこなわれていて、誰がどこにいるか、ととりあえず全員が把握できるような状態にしておく。動ける人数にもよるが、個人で出る人は自由に動けるようにして、他の人員に余裕があれば、できれば個人で出る人のお世話係的なポジションに人をつけた方がいい。番組にエントリーしている場合は、もちろんそこにも人をつける。あとの人は、出場可能性がある番組会場につけて、ひたすら見て、聞いて、学ぶ!!

・ホテルでの過ごし方

部屋割りによく考えて決める。アナ朗の「選手」は、夜型の人とは一緒にしない。出場する人がはしゃぎすぎず、落ち着いて大会に臨めるような環境を周りが作れるように努力する。部屋は、確認などがしやすいように、出場する人は出場する人でまとめた方がいいかもしれない。また、ホテルの空調は相当ひどいので、フロントに言って加湿器を借りたり(おそらく他の学校も借りるので、早く言わないとなくなってしまう)、お風呂にお湯をはってお風呂場の戸を開けっ放して寝たり、マスクをしたり、大声で笑いすぎない、など、のどを壊さないように万全の対策をする。夜は早く寝る!

・出場しない人の心持ち

滅私の精神で。自分は二の次で、大会に出る人のことを考えて行動する。番組は、提出してしまえばあとはきちんと流れるのを祈るだけだが、アナウンス・朗読は、直前までできること、しなくてはいけないことがある。周りのサポートが大切。個人の結果をみんなで喜べるような関係を。

③当日

・当日は乳製品をとらない

合唱でもよく言われることだが、乳製品をとるとのどに膜が張った感じになり、上手く声が出なくなる。アナ朗に出る人は、当日は牛乳・コーヒー・チーズ・オレオなどは控えましょう。喉には、あんぱんを食べるのがいいらしい。

・のど飴、(濡れ)マスク、ストップウォッチ

直前まで喉をいたわる。終わってからも、準決勝、決勝、春の甲子園の司会、来年のNHKホールの司会があると思って、気を抜かない。時間は不安になるので、ストップウォッチを持っていた方がいいでしょう。

・本番の直前に、なにか新しいことをやろうとしたり、安易なアクセント修正をしたりしないこと

・会場の空気にもまれぬ。むしろ自分の出番で会場の空気を変えるつもりで第一声を発する

・アナウンスや朗読は、できれば全員で応援

全く知らない全国の人たちの前で一人で発表するのは緊張する。知っている人の顔が一人でも見れば安心できるので、できるだけ前の席をとって、発表する人を安心させましょう。

・デジカメ、録音など

個人の発表を撮影するために、デジカメ係を決めておいた方がいい。あとは、録音機器などがあって録音できれば、発表者があとから聞いて勉強になる。

・謙虚な心持ちで。

他の出場者のアナウンスや朗読、他の学校の作品に対してとやかく言うことはしない。思うことがあっても、それは公共の場で述べることはありません。どこにそれを作成した学校の方がいるかもわからないので、番組を見ながらぶつぶつ批評をしたりするのはやめましょう。

・携帯電話の携帯

発表時間や予定がずれることもあるので、それぞれの会場の人同士で連絡をとりあえるように。大会中はみんなバラバラに動くことになると思うが、昼ごはんには極力全員集まれるようにした方がいい。進行状況など、そこで確認をする。

※出場しない人※

・他の人の発表、他校の作品から学ぶ

アナウンスは、どんな話題をどんな表現を使って紹介しているか。朗読は、どこをどんなふうに表示しているか。ラジオやテレビは、どんな音を使っていて、どんなカメラワークで撮影しているか、など、メモをとったり、自分なりにつつこんだり評価してみることも勉強になる。また、その人・学校が、発表や作品を通して「何を伝えたいのか」ということを考えながら見ること。これがいちばんの勉強法なのではないかと思う。何が伝えたいのかわからなかったものは上位にはあまり入っていない気がします。そこが分かれば、これからどうしていけばいいかも見えてくるのでは?と思う。

・発表している時に寝ない

これはアホです。そして失礼。全国大会でも、外が暑いからとりあえずクーラーのきいた会場に入って、最初から机につぶして寝ていたり、宿題している人までいた。来たくても来れなかった人のことを思えば、そんなことはできないはず。少しでも多くのことを学べるように、集中する!

・アナウンスに出場する人がいる場合、準決勝はラジドキュにも人をつける

・決勝課題に備える

アナウンスの決勝課題は、ラジドキュで決勝に進んだ作品を100字以内で紹介するというもの。それは決勝当日になってからだとキツイので、準決勝の段階で誰かが会場について、内容などを全部メモして、決勝に進みそうなものに目星をつけ、できれば簡単に内容をまとめておく。それを事前にアナウンスの人に伝えておければ、アナウンスの人にはわずかでも余裕が生まれるはず。万が一アナウンスが決勝に進めなくても、番組を聴けるのでそれは勉強になる。無駄にはならない。全力でサポートできる体制を。ラジドキュの準決勝を全部録音しながら原稿を書いている学校もあります。

・決勝課題をつくる

原稿は、取材をしてつくるのが、盛岡一高放送委員会です。ラジドキュの決勝進出校の方から直接お話しをしていただくのは大変です。それでも、第53回大会のアナウンス優勝の先輩は、ちゃんと取材して、「」だけの原稿をつくりました。ちなみに、この先輩の自分の原稿には、「」がありません。

松商学園放送部は勉強する意味や大切さを考えた番組を作りました。制作した吉沢惇さんは「テストが悪かった事をきっかけに初めて勉強の事を真剣に考えました。どこにでもきっかけはあるんですね」と話していました。

・お友だちをつくる

視点の違いを感じられたり、なにより大会でも緊張しない環境になれる。せっかく全国から同じように放送をやっている人たちが集まるのに、その機会を活用しない手はない。どんどん声をかけて、作品をゆずってもらいます。こちらもDVDを配ってアピールして総文祭に行く楽しみもつくります。

・研究講座や大会の講評はメモして有効に活用

テレビ局の方などのお話しが聞けるよい機会。そういう時にいかに真面目に聞いて、受け止められるかが、その人の今後の力に関わるのではないかと思う。自分の発表だけ、の人にそれ以上の成長はない。

・結果は全て受け止める

・先生や仲間、応援して下さった全ての方に感謝する

④大会から帰ってきたら

・自分なりに大会を振り返って、反省をまとめる

・大会に行かなかった人に学んだことなどを伝える

実はこれがいちばん大切。学んだことを全員で共有できなければ意味がない。見たこと、感じたこと、色々話して、自分や、その時は参加できなかった人の、次への原動力にする。

・講評などを見返して、まとめる

大会でその時はメモをしても、実はそれがそのままということは多い。何かに書き出してまとめるなどして、活用することが大切。その都度その都度書き出してみると、やはりどこに行っても言われることは同じなんだなということもわかる。

・どんな結果であれ、すぐ切り替えて、次へ!!!!

⑤総文祭では

・せっかくの県外取材のチャンス。4泊5日で番組1本はつくってきましょう。

アナウンス

- ・放送は「しゃべり」。「読み」という言葉は使用禁止。しゃべって「聞かせる」。朗読も同じ
- ・言いたいことならいきいきと自然にしゃべれる。自然なしゃべりがいいアナウンス☆
- ・地声でしゃべる、裏声禁止
- ・意味の区切りをうまく表現する(意味が伝わる話し方。伝わらなければ意味がない!)
- ・一音一音をはっきりくっきりとはしゃべらない(普段そうやって話しますか?)
- ・自分でニュースをどれだけ捕まえられるか(色々なことに興味を持って、自分なりのネタを見つける!)
- ・普段の心がけが大事、学校の中での発見を、ワクワクして取材できるといい。
- ・色々な描写を探す(どんな角度からでもどんな距離からでも…)
- ・身近なものを題材(聞いている人が共感できる)
- ・伝えたいことを核としてしっかり持つ
- ・自信を持ってしゃべる
- ・頭のインパクト
- ・声を飛ばすイメージ
- ・言葉の置き換え(同じ言葉が何度も続くのはよくない)
- ・↑しかしあえて何度も同じ言葉を使ってみるのもあり(キーワード。しかし使いすぎると気持ち悪い)

朗読

- ・朗読といふとなんとなく暗く低く読む人が多い(表現の幅が狭まってしまう)
- ・アナウンスと同じく、高い音から出て低い音で終わる。始めは高い音で!(明るいのと高いのは違う)
- ・声を小さくしても息が使えるれば声が出る
- ・語尾までしっかり丁寧に
- ・練習回数はものをいう(やっぱり練習は大切)
- ・息づかい(本の中の世界になるので、登場人物の息づかいを考えなければならない。だから難しい)
- ・距離感を考える(登場人物がどのような距離感で話をしているのか、考えると声の出し方も変わる)
- ・意味の通りの音にする(表現を気にしすぎるあまり、不自然になりがち。自然に)
- ・高い音、低い音の使い分け、強弱を考える。意味のまとまり。
- ・芝居じみるのは朗読ではない(気持ちを込めるのはいいが、朗読は演劇ではない)
- ・高校生らしい身の丈にあった作品選び

☆アナウンス・朗読ともに、誰に向かって話すのか。

～放送といっても、1対多数ではなく、1対1の方向性を持つべき～

!!アナウンス・朗読では面積が得点になる図!!

おまけⅡ♪番組について(´ω`)

『番組で、伝えること』20090927放送講習会 菊地達哉先生の講座より

(1)放送と他のメディアとの違い～映画、DVD、プレゼン、活字、絵画などではない放送～

・放送はそもそも「おじゃま虫」。見よう・聴こうと構えている人はいない。そんな人を立ち止まらせ、振り向かせることが必要(帝塚山 桐畑先生)。

偶然番組に遭遇した人が、不愉快にならないことも大事(テレビ岩手 中野さん)。

・表現方法の特徴…「時間」で表現するメディア

→ 番組は相手の時間を奪うもの。時間をかけて相手に理解させる。時間がキーワードというところで、放送は人生と一緒に進む。放送は人生につながる☆

・番組とは…演芸、放送などの組み合わせや出演者の役割、順番などを決めたもの

→ 映っている人は常にかっこよく★

・programとは…ある目的のために立案する本格的な計画

(2)テレビとラジオの違い～メディアは正しく選択を～(西澤實先生)

・目でわからせるのが、テレビ

・音で想像させるのが、ラジオ

→ 番組にするネタが、テレビで作り意味があるか、またはラジオにする意味があるか考える。大会の講評で、”このネタはラジオじゃなくテレビでやった方がよかったんじゃない?”とか書かれると、非常に悔しいです。

(3)制作手法の違い～ドキュメントとドラマ～(西澤實先生)

・事実を積み重ねて真実を伝えるのが、ノンフィクション…ドキュメント、ニュースなど

・(リアリティーのある)嘘を積み重ねて真実を伝えるのがフィクション…ドラマ、CM

・2つの手法は混ぜないのが基本…混ぜると真実がわからなくなる

例『おもてなしのわんこそば』の最後の部分。最後がフィクションになってしまった…。

☆ドラマについて☆

・ドラマの基本構造(西澤實先生)

!!ドラマの基本構造の図!!

※まず、転(オチ)を考えて、それにつながる仕掛け(サスペンス)を組み立てる。

☆ドキュメントについて☆

- ・人や (過去) ←後追いになってしまう
 - ・できごとを(現在進行形)←決定的瞬間を撮るのが難しい
 - ・取材して
 - ・(感動を)伝える
 - ・人に対する感動
 - ・誰に会えるか
 - ・今起きていることを撮るのは難しい。どうしても後追いになってしまう…
→常に決定的な瞬間を求める人にならない
 - ・主人公が誰になるかわからない… 例)『おばけ屋敷』『一年生の七週間』
 - ・何が起きるかわからないからこそ、ドキュメントはおもしろい!!
- ※調査系は、ドキュメントではないのではないか。フィクションな演出をしている時点で、もはやドキュメントとはいえない。だから、調査系をドキュメントとしては出したくないです。

☆共通して大切なこと☆

- ・ポイントをしぼる。例)『転校ものがたり』でいう、“目”
- ・番組の構成を途中で変えると絶対におかしくなる。
最初の構成をどれだけきちんと出来るかがポイント!!

ラジドラ

- ・セリフ、誰がしゃべっているのかわかるように(声がかぶらないように気をつける)
- ・設定が理解できないと聞き手はついていけない
- ・ストーリー展開の理由づけ、なぜそうなるのか
- ・ぶつとぶなら思い切りぶつとぶ！中途半端に飛ぶとかえってわからない
- ・冒頭が大切。印象に残るので、そこをいかにおもしろくするか
- ・シチュエーションの必然性を考える
- ・ラジオだからできることがある(実際映像にはできないけど…)
- ・オチまでの時間(短すぎても長すぎてもダメ)
- ・音のバランス・音の使い方(セリフだけでなく、ラジオならではの”音”をうまく使おう!)

◎ラジオ番組を制作する上でのポイント(NHK市谷社)

～「ラジオ」の特性は、音声で伝えること～

(1)映像がない。

- ・聴く人に集中を要求する。→集中を持続させる「しかけ」が必要。
- ・聴く人の想像力に委ねる。→イメージを喚起する工夫。
- ・言葉と音だけで伝える。→抜け落ちている情報はないか？

(2)頭から順番に聴く。

- ・聴く人は情報の順番を選べない。→「わかりやすい」順番(構成)。
- ・ある程度行き先が分からないと聴いていられない。→予想と意外性のバランス。

(3)たいてい一度しか聴かない。

- ・一発で分からせる。→平易な単文を積み上げる文章術。
- ・すべてを集中して聴くわけではない。→重要な情報は時間をおいて繰り返す。
- ・印象の強い部分しか記憶に残らない。→メリハリのある演出。

(4)言葉＋言葉以外の音だけで成り立つ。

- ・言葉(ナレーション・セリフ・朗読・インタビュー・会話・歌詞)→説明・意図・論理を伝える。
- ・言葉以外の音(現場音・効果音・音楽)→状況やイメージを喚起する。

現場音—意識的に現場の音を録ってくる。

効果音—意外な音源で自作できることがある。(面白さ)

音楽—印象が強いのでクスリにも毒にもなる。(慎重に)

* 重層的な音作りを心がける。

→言葉と言葉以外の音を重ねる。「足し算」の効果。

→重要な主張だけを際立たせる。「引き算」の効果。

* 録音と編集のポイント。

- ・録音は撮影よりも難しい。音声レベル・雑音などに対する配慮。
- ・録音スタイル ICレコーダーで録音、PCで編集が主流へ。
- ・場数とフィードバック(多くの人に聴いてもらう)でスキルアップを。

テレビドキュ

- ・きれいにまとまりすぎるのもよくない。とんがった番組やもっと破天荒なものを!!
- ・冒頭の入り、つかみ
- ・インタビューに偏らず、映像で見せる!
- ・何を伝えたいのか、核になるもの
- ・始めて見る人の気持ちを考える。少しの間を大切に。
- ・静止画はあまりよくない。テレビの流れを止めてしまう。安易に使わない方がいい。
- ・全体を見る。部分部分で直していると、あとで見た時に全体が変わってしまったりする。

◎ドキュメントを制作する上でのポイント(NHK市谷壮)

- ・ドキュメントの特性は、当事者が登場すること→インタビュー、モノローグ等
(事件、テーマの当事者・歴史的な題材ならそれについて知識のある人など)
- ・ドキュメントのコツ→当事者の肉声があること。
→現場の空気感＝ドラマではない、本物ならではの説得力が生まれる。

☆ラジオ・テレビ共通☆

- ・ラジオでないといけないもの、テレビでないといけないもの、それをよく考える
- ・見る人、聞く人にやさしく、わかりやすく
- ・自分たちにしかできないことをやる
- ・せっかく作るんだから、色々な発見や新しい事実、そこで見えてきた人の心の動きを見つめる。「がんばっている」から「がんばっている」と紹介するのではなくて、彼・彼女は「どこをどう変わろうとしているのか」、そんな心の動きを大切に见せる。
- ・いちばん難しいのはインタビュー。聞きたいことにたどりつくような設計、どういう質問をするか
(自分たちが考えていたようにうまくいかない時には、それが相手が本当に言いたいことなのだと、あきらめてもう一度構成を考え直す必要があります。私たちが頭で考えることは、たかが自分の頭で考えたことで、たいしたことはありません。その辺の切り替えも大切です)

◎番組制作の際の共通のポイント

- 1.「だれに」「何を」伝えるのか。
 - 2.「どのように」伝えたら伝えたいことが伝わるのか。
 - 3.制作の手順(考え方の順序)
 - (1)聴く人は誰か、どんな状況で聴くのかを想定する。
 - (2)その人に何を伝えるか。
 - 手持ちのメッセージはたいてい使えないので新たに取材する。
 - 情報≡意外性 これによって聴く人の関心を導く。
 - (3)どんな風に伝えるか。→制作上の工夫が必要になる。
 - ・「構成」の考え方。
 - 起＝びっくりさせる。
 - 承＝「びっくり」に至るあらすじ
 - 転＝「びっくり」についての内容を描く。
 - 結＝有ってもなくてもよい。?
 - ※「構成」については制作者それぞれの流儀がある。自分の流儀を手に入れればよい。
- ・聴く人を楽しませることを念頭におく。 Entertainment = 「おもてなし」(大林宣彦)
 - 自分自身のスキルアップ、フィードバック(多くの人に聴いてもらう)
 - 発表の場はたくさんもうけるべき。(制作者はなかなか客観的に見ることはできない)

おねりによゆ(. .)

はじめに、このマニュアルの作成者である私は、機械関係が全くわからない人間であるため、このマニュアルに機械やカメラに関する説明がほぼ皆無であることをお許しください。申し訳ありません。

…それにしても、長くなりました。とてつもなく長くなりましたね…。こんなはずではなかったとは、こういうことを言うんでしょう。内容的に、もはや「マニュアル」と呼ぶにふさわしいものではなくてはなくなっているのはよくわかっていますが、うまい言葉が見つからず、結局「放送委員会マニュアル」になってしまいました。この分量を、最後まで真面目に読んだあなたは偉い!!!!尊敬します。ぜひもう何周か読んで、ここに書いてあることは完璧にしてください♪…というのは半分くらい冗談で、こんな膨大な資料をのんびり読むほど皆様ヒマではないと思いますので、何人かで集まって、「きょうはここ」と項目を決めて読んで、疑問な点などを下級生が上級生に聞くなどして、有効に活用していただければと思います。

マニュアルを更新するにあたって行事や仕事の説明を増やしたのは、その時期になって初めて、「こんなことをするのか!!」と知るのではなく、前もってどんなことをするのか簡単にでも知っておくことで、見通しを持って行動できればと思ったからです。これを読んで、疑問に思ったことやそれぞれの行事の様子をみんなで話したりして、楽しく♪、お仕事の話題が少しでも広がればいいなと思います。

最後に、昼放送についてです。みなさんは、昼放送が学校にどういう効果をもたらすか考えたことがありますか?昼放送には、学校全体をつなぐ効果があります。もし昼放送がなかったら、他の部が今どんなことをしていて、学校で今何が起きているのかをみんなが知ることはできません。たまにお昼の放送を自分の教室で聞いていると、放送で紹介されたクラスメイトに対して、「おい〇〇、優勝かよ～!!すげ～!!」とみんながにこにこしながらちゃかすというような様子をよく目にします。このように、いつもは知らないクラスメイトの活躍や、よく紹介される他のクラスのすごい人を、昼放送を通してみんなが知ることができます。私たちが取材して仲良くなった人のことを、お昼の放送で全校に向けて紹介することで、「取材相手と自分(放送委員)」の間のつながりを、「取材相手と全校」や「全校の誰かと誰か」のつながりに変えることができます。それってとっても素敵なことじゃありませんか!?☆原稿を書きながら、昼放送をしながら、「この原稿を流すことで、どこかでまた新たなつながりが生まれたかもしれないな」と思えば、原稿を書くことも、昼放送をすることも、すごく楽しくなるはずですよ。「放送を聞けば、友だちが増える」、そんな放送を目指して、前向きに、楽しく、がんばってください!!

最後まで読んでいただきありがとうございました。では♪

2010/7/21 放送委員長3年 弓岡千恵

☆放送委員会マニュアル☆

2010年7月21日 初版発行

発行者 2011年3月卒業予定の放送委員

発行所 盛岡第一高等学校放送委員会

住所 〒020-8515 岩手県盛岡市上田3丁目2-1

盛岡第一高等学校 昇降口を入れて右に歩いていった校長室の前の放送室

出没地 ネタがあるところにはどこへでも!!

本書の複写は、盛岡一高の放送委員であるという例外を除き、禁じられています。

部外秘事項も含まれておりますので、取り扱いには十分注意してください。

なお、これについてのお問い合わせは、

お近くの先輩または、発行者の私を探してください。

では、また♪

☆参考にした資料☆

色々な資料からとってきすぎてわからないので、アバウトに書きます。←
皆様、くれぐれも営利目的には使用しないでください!!

☆元顧問の菊地達哉先生の制作した様々な資料☆

☆大会での様々な講評☆

☆機械がわかる方が作ったマニュアル☆

☆先輩の話していたこと、助言☆ そして、

☆私がおよそ3年間の委員会活動で気づいたこと、学んだこと☆